

2022（令和4）年度
事業報告書

学校法人常磐大学

目 次

1 法人の概要	1
(1) 建学の精神	1
(2) 学校法人の沿革	1
(3) 設置する学校, 学部, 学科等	2
(4) 学校, 学部, 学科等の状況	3
① 在籍者状況 (2022年5月1日現在)	3
② 入試状況 (2023年5月1日現在)	4
③ 進路状況 (2023年3月31日現在)	5
(5) 役員の概要 (2022・2023年5月1日現在)	7
(6) 評議員の概要 (2022・2023年5月1日現在)	8
(7) 職員の概要	9
① 教育職員数 (2022年5月1日現在)	9
② 事務職員数 (2022年5月1日現在)	9
2 事業の概要	10
(1) 2022年度事業報告	10
学校法人常磐大学	10
常磐大学	13
常磐短期大学	20
常磐大学高等学校	24
智学館中等教育学校	27
常磐大学幼稚園	30
(2) 2022年度主要行事	31
3 財務の概要	32
(1) 事業活動収支計算書関係比率	32
(2) 貸借対照表関係比率	33
(3) 経営上の成果と課題	34
4 施設設備整備の概要	34
(1) 施設設備整備事業実施の位置図	34

1 法人の概要

(1) 建学の精神 「実学を重んじ、真摯な態度を身につけた人間を育てる」

- ビジョン (2019-2023)
- 1 教育・研究活動の充実〔教育, 研究, 入試改革〕
 - 2 社会貢献の実践〔地域連携, 国際交流, 進路支援〕
 - 3 安定した運営基盤の確立〔人材, 財務, 施設設備, 管理運営, 広報〕

常磐大学・常磐短期大学【教育の理念】

「自立」「創造」「真摯」

常磐大学高等学校【校訓】

「頼れる自分になる 正しい自分になる 豊かな自分になる」

智学館中等教育学校【教育の基本理念】

「人間の尊厳を大切にし、世界的視野で考え行動できる人になる」

常磐大学幼稚園【教育目標】

「健康で、明るい子」「よく考え、工夫する子」「みんなと仲よく遊べる子」

「自分から進んで活動にうちこめる子」

(2) 学校法人の沿革 (2023年4月1日現在)

1909 (明治42) 年	11月	小田木 (諸澤) みよ	水戸市馬口労町に裁縫教授所を開設
1922 (大正11) 年	4月	水戸常磐女学校	を開校
1935 (昭和10) 年	4月	常磐高等女学校	を開校
1948 (昭和23) 年	4月	学制改革により総合制の常磐女子高等学校	を開校 (普通科, 被服科, 商業科, 別科)
1951 (昭和26) 年	3月	私立学校法により学校法人常磐学園	設置認可
1966 (昭和41) 年	1月	常磐学園短期大学	設置認可
	4月	常磐学園短期大学	を開学 (家政科家政専攻, 家政科食物栄養専攻)
1968 (昭和43) 年	4月	常磐学園短期大学	幼児教育科を設置
1969 (昭和44) 年	12月	常磐学園短期大学	附属幼稚園設置認可
1970 (昭和45) 年	4月	常磐学園短期大学	附属幼稚園を開園
1975 (昭和50) 年	4月	常磐学園短期大学	教養科を設置
1983 (昭和58) 年	1月	常磐大学	設置認可
	4月	常磐大学	を開学 (人間科学部人間関係学科, 人間科学部コミュニケーション学科)
1987 (昭和62) 年	4月	常磐学園短期大学	の学科名称変更 (教養科を教養学科, 幼児教育科を幼児教育学科, 家政科家政専攻を生活科学科生活科学専攻, 家政科食物栄養専攻を生活科学科食物栄養専攻)
1988 (昭和63) 年	4月	常磐大学	人間科学部組織管理学科を設置
1989 (平成元) 年	4月	常磐大学	大学院人間科学研究科人間科学専攻修士課程を設置
1990 (平成2) 年	4月	常磐学園短期大学	を常磐大学短期大学部に名称変更し, 男女共学化
		常磐大学	短期大学部経営情報学科を設置
		常磐学園短期大学	附属幼稚園を常磐大学短期大学部附属幼稚園に名称変更
1993 (平成5) 年	4月	常磐大学	大学院人間科学研究科人間科学専攻博士課程 (後期) を設置
1996 (平成8) 年	4月	常磐大学	国際学部を設置 (国際協力学科, 国際ビジネス学科)
1999 (平成11) 年	4月	常磐大学	短期大学部を常磐短期大学に名称変更
		常磐大学	短期大学部附属幼稚園を常磐短期大学附属幼稚園に名称変更
2000 (平成12) 年	4月	常磐大学	コミュニティ振興学部を設置 (コミュニティ文化学科, ヒューマンサービス学科)
		常磐女子	高等学校を常磐大学高等学校に名称変更し, 男女共学化
2002 (平成14) 年	4月	常磐短期	大学の幼児教育学科を幼児教育保育学科に名称変更
2003 (平成15) 年	4月	常磐短期	大学教養学科, 経営情報学科を募集停止
		常磐短期	大学キャリア教養学科を設置
2004 (平成16) 年	4月	常磐大学	大学院コミュニティ振興学研究科コミュニティ振興学専攻修士課程を設置
		常磐大学	人間科学部人間関係学科, 組織管理学科および国際学部国際協力学

		科，国際ビジネス学科を募集停止
		常磐大学人間科学部心理教育学科，現代社会学科および国際学部国際関係学科（国際協力学専攻，国際ビジネス学専攻），英米語学科を設置
	12月	常磐短期大学経営情報学科を廃止
2005（平成17）年	1月	学校法人常磐学園を学校法人常磐大学に名称変更
	4月	常磐大学大学院被害者学研究科被害者学専攻修士課程を設置 常磐短期大学附属幼稚園を常磐大学幼稚園に名称変更
2006（平成18）年	3月	常磐短期大学教養学科を廃止
	4月	常磐大学コミュニティ振興学部地域政策学科を設置
2007（平成19）年	11月	智学館中等教育学校設置認可
2008（平成20）年	4月	常磐大学人間科学部心理教育学科，国際学部国際関係学科（国際協力学専攻，国際ビジネス学専攻）を募集停止 常磐大学人間科学部心理学科，教育学科，健康栄養学科および国際学部経営学科を設置 常磐短期大学生生活科学科食物栄養専攻，生活科学科生活科学専攻を募集停止
	4月	智学館中等教育学校を開校
2009（平成21）年	3月	常磐短期大学生生活科学科を廃止 常磐大学国際学部国際ビジネス学科を廃止
	12月	常磐大学人間科学部人間関係学科を廃止
2010（平成22）年	3月	常磐大学人間科学部組織管理学科および国際学部国際協力学科を廃止
2013（平成25）年	3月	常磐大学人間科学部心理教育学科を廃止
	4月	常磐大学大学院被害者学研究科被害者学専攻博士課程（後期）を設置
2014（平成26）年	3月	常磐大学国際学部国際関係学科を廃止
2015（平成27）年	4月	常磐大学幼稚園が認定こども園（幼稚園型）に認定
2016（平成28）年	4月	常磐大学大学院被害者学研究科被害者学専攻博士課程（後期），修士課程，およびコミュニティ振興学研究科コミュニティ振興学専攻修士課程を募集停止
2017（平成29）年	4月	常磐大学国際学部を募集停止（経営学科，英米語学科） 常磐大学コミュニティ振興学部を募集停止（コミュニティ文化学科，地域政策学科，ヒューマンサービス学科） 常磐大学総合政策学部を設置（経営学科，法律行政学科，総合政策学科）
2018（平成30）年	3月	常磐大学大学院被害者学研究科被害者学専攻博士課程（後期），修士課程，およびコミュニティ振興学研究科コミュニティ振興学専攻修士課程を廃止
	4月	常磐大学看護学部を設置（看護学科）
2020（令和2）年	5月	常磐大学国際学部英米語学科を廃止
2021（令和3）年	5月	常磐大学コミュニティ振興学部地域政策学科を廃止
	9月	常磐大学コミュニティ振興学部を廃止（コミュニティ文化学科，ヒューマンサービス学科）
2022（令和4）年	3月	常磐大学国際学部を廃止（経営学科）
	4月	常磐大学大学院看護学研究科看護学専攻修士課程を設置
2023（令和5）年	4月	常磐短期大学キャリア教養学科，智学館中等教育学校を募集停止

（3）設置する学校，学部，学科等（2023年3月31日現在）

	研究科・学部	学科・専攻	設置認可日等	所在地等
常磐大学 大学院	人間科学研究科	人間科学専攻	博士課程（後期） 1993年3月19日	茨城県水戸市見和1丁目430番地の1 TEL:029-232-2511 FAX:029-231-6078 https://www.tokiwa.ac.jp/
			修士課程 1989年3月17日	
常磐大学	人間科学部	心理学科	2008年4月1日	
		教育学科	2008年4月1日	
		現代社会学科	2004年4月1日	
		コミュニケーション学科	1983年1月17日	
		健康栄養学科	2007年12月3日	
常磐大学	総合政策学部	経営学科	2017年4月1日	
		法律行政学科	2017年4月1日	
		総合政策学科	2017年4月1日	
常磐大学	看護学部	看護学科	2018年4月1日	桜の郷キャンパス（看護学部） 茨城県東茨城郡茨城町桜の郷208 TEL:029-297-6251 FAX:029-297-6252

常磐短期大学	キャリア教養学科	2002年7月30日	茨城県水戸市見和1丁目430番地の1 TEL:029-232-2511 FAX:029-231-6078 https://www.tokiwa.ac.jp/
	幼児教育保育学科	1968年2月3日	
常磐大学高等学校		1922年4月1日	茨城県水戸市新荘3丁目2番28号 TEL:029-224-1707 FAX:029-224-6579 https://www.tokiwa.ac.jp/~tokikou/
智学館中等教育学校		2007年11月1日	茨城県水戸市小吹町2092 TEL:029-212-3311 FAX:029-212-3300 https://www.tokiwa.ac.jp/~chigakukan/
常磐大学幼稚園		1969年12月24日	茨城県水戸市見和1丁目425番地 TEL:029-232-2680 FAX:029-232-2824 https://www.tokiwa.ac.jp/~youchien/

(4) 学校、学部、学科等の状況

① 在籍者状況（2022年5月1日現在） *（ ）内の数字は、女性の人数を内数で示す。

常磐大学大学院

研究科	専攻・課程	収容定員	在籍者数		定員充足率
人間科学研究科	人間科学専攻	6	0	(0)	0%
	博士課程（後期）		13	(8)	
看護学研究科	看護学専攻	6	6	(5)	100.0%
	修士課程				
合計		32	19	(13)	59.4%

常磐大学

学部	学科・専攻	収容定員	在籍者数		定員充足率
人間科学部	心理学科	360	397	(238)	110.3%
	教育学科	272	309	(171)	113.6%
	現代社会学科	360	427	(164)	118.6%
	コミュニケーション学科	280	255	(153)	91.1%
	健康栄養学科	320	325	(278)	101.6%
	小計	1,592	1,713	(1,004)	107.6%
総合政策学部	経営学科	340	391	(137)	115.0%
	法律行政学科	300	330	(81)	110.0%
	総合政策学科	340	363	(118)	106.8%
	小計	980	1,084	(336)	110.6%
看護学部	看護学科	320	340	(301)	106.2%
	小計	320	340	(301)	106.2%
合計		2,892	3,137	(1,641)	108.5%

常磐短期大学

学科	収容定員	在籍者数		定員充足率
キャリア教養学科	200	113	(110)	56.5%
幼児教育保育学科	280	228	(220)	81.4%
合計	480	341	(330)	71.0%

常磐大学高等学校

収容定員	在籍者数	定員充足率
1,320	1,198 (772)	90.8%

智学館中等教育学校

収容定員	在籍者数	定員充足率
720	125 (71)	17.4%

常磐大学幼稚園

収容定員	在籍者数	定員充足率
175	162 (88)	92.6%

過去5年間の在学者数（収容定員充足率）推移

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
大学院	15 (57.6%)	15 (57.6%)	18 (69.2%)	19 (73.0%)	19 (59.4%)
大学	2,472 (86.6%)	2,693 (95.0%)	2,892 (102.8%)	3,068 (106.0%)	3,137 (108.5%)
短期大学	420 (87.5%)	415 (86.4%)	415 (86.4%)	377 (78.5%)	341 (71.0%)

高等学校	1,198(90.7%)	1,129(85.5%)	1,109(84.0%)	1,143(86.5%)	1,198(90.8%)
中等教育学校	155(21.5%)	141(19.6%)	138(19.2%)	131(18.2%)	125(17.4%)
幼稚園	172(98.2%)	174(99.4%)	172(98.2%)	167(95.4%)	162(92.6%)
合計	4,432(79.5%)	4,567(82.2%)	4,744(85.7%)	4,905(87.3%)	4,982(88.7%)

② 入試状況(2023年5月1日現在) * ()内の数字は、女性の人数を内数で示す。

常磐大学大学院

<2023年度>

研究科	専攻・課程		入学定員	志願者数	入学者数	定員充足率
人間科学研究科	人間科学専攻	博士課程(後期)	2	0	0 (0)	0%
		修士課程	10	14	5 (3)	50%
看護学研究科	看護学専攻	修士課程	6	6	6 (6)	100%
合計			18	20	11 (9)	61.1%

<2022年度>

志願者数	入学者数
1	0 (0)
11	7 (5)
7	6 (5)
19	13 (10)

常磐大学

<2023年度>

学部	学科・専攻	入学定員	志願者数	入学者数	定員充足率
人間科学部	心理学科	90	276	106 (56)	117.8%
	教育学科 初等教育コース 中等教育コース	50	113	45 (33)	90.0%
		16	81	26 (9)	162.5%
	現代社会学科	90	200	98 (20)	108.9%
	コミュニケーション学科	70	142	59 (34)	84.3%
	健康栄養学科	80	115	63 (55)	78.8%
	小計	396	927	397 (207)	100.3%
3年次編入学	教育学科 初等教育コース 中等教育コース	2	1	1 (1)	50%
		2	0	0 (0)	0%
	コミュニケーション学科	若干名	4	3 (3)	—
	小計	—	5	4 (4)	—
総合政策学部	経営学科	85	206	90 (23)	105.9%
	法律行政学科	75	156	67 (21)	89.3%
	総合政策学科	85	184	84 (26)	98.8%
	小計	245	546	241 (70)	98.4%
	3年次編入学	法律行政学科	若干名	1	1 (1)
小計	—	1	1 (1)	—	
看護学部	看護学科	80	208	87 (78)	108.8%
合計		721	1,681	725 (355)	100.6%
	3年次編入学 合計	—	6	5 (5)	—

<2022年度>

志願者数	入学者数
313	106 (61)
149	47 (40)
80	23 (6)
213	103 (42)
156	59 (32)
151	85 (78)
1,062	423 (259)
1	1 (1)
0	0 (0)
—	—
1	1 (1)
255	94 (28)
210	93 (22)
203	99 (32)
668	286 (82)
—	—
—	—
260	81 (68)
1,990	790 (409)
1	1 (1)

常磐短期大学

<2023年度>

学科	入学定員	志願者数	入学者数	定員充足率
キャリア教養学科	—	—	—	—
幼児教育保育学科	120	109	101 (96)	84.2%
合計	120	109	101 (96)	84.2%

<2022年度>

志願者数	入学者数
76	63 (61)
111	107 (105)
187	170 (166)

常磐大学高等学校

<2023年度>

入学定員	募集定員	志願者数	入学者数	募集定員充足率
440	400	1,711	395 (227)	98.8%

<2022年度>

志願者数	入学者数
1,744	395 (244)

常磐大学幼稚園

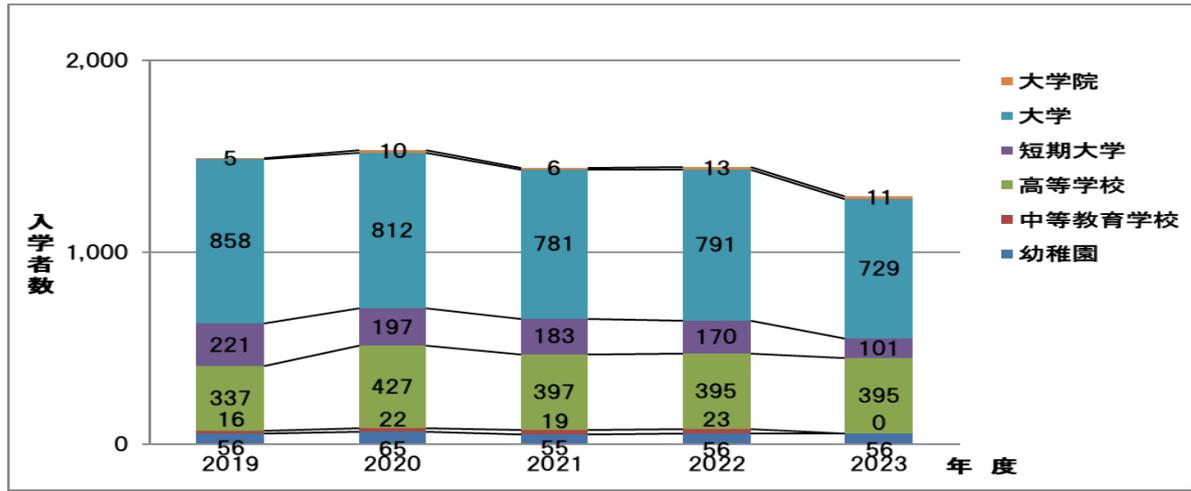
<2023年度>

	募集人員	志願者数	入園者数	募集人員充足率
3歳児	55	50	49 (24)	89.1%
4歳児	10	5	5 (2)	50.0%
5歳児	—	2	2 (2)	—
合計	—	57	56 (28)	—

<2022年度>

志願者数	入園者数
50	47 (24)
7	7 (5)
2	2 (0)
59	56 (29)

過去5年間の入学者数推移



③ 進路状況 (2023年3月31日現在)

常磐大学大学院

<2022年度>

研究科・課程	卒業生	就職希望者	就職者	就職率
人間科学研究科 (博士)	0	0	0	—
人間科学研究科 (修士)	5	4	3	75.0%

<2021年度>

卒業生	就職希望者	就職者	就職率
0	0	0	—
9	9	8	88.9%

【就職】 医療法人社団有朋会 こころのクリニック水戸、児童発達支援・放課後等デイサービス こどもサークル鹿嶋緑ヶ丘、医療法人永朋会 きもとメンタルクリニック

常磐大学・常磐短期大学

<2022年度>

学部・学科・選考		卒業生	就職希望者	就職者	就職率
人間科学部	心理学科	96	76	71	93.4%
	教育学科	72	57	57	100.0%
	現代社会学科	107	102	97	95.1%
	コミュニケーション学科	49	34	34	100.0%
	健康栄養学科	77	71	71	100.0%
	人間科学部計	401	340	330	97.1%
総合政策学部	経営学科	99	94	93	98.9%
	法律行政学科	70	65	64	98.5%
	総合政策学科	86	80	75	93.8%
	総合政策学部計	255	239	232	97.1%
国際学部	経営学科	—	—	—	—
	国際学部計	—	—	—	—
看護学部	看護学科	87	83	83	100.0%
	看護学部計	87	83	83	100.0%
大学計		743	662	645	97.4%
キャリア教養学科		44	34	32	94.1%
幼児教育保育学科		116	108	108	100.0%
短期大学計		160	142	140	98.6%

<2021年度>

卒業生	就職希望者	就職者	就職率
73	58	57	98.3%
63	53	53	100.0%
101	93	92	98.9%
44	40	37	92.5%
75	73	72	98.6%
356	317	311	98.1%
98	88	85	96.6%
34	29	27	93.1%
53	46	43	93.5%
185	163	155	95.1%
1	0	0	0%
1	0	0	0%
85	80	80	100.0%
85	80	80	100.0%
627	560	546	97.5%
66	60	57	95.0%
118	114	114	100.0%
184	174	171	98.3%

大学 ※主な就職先

【民間企業】 アイ・イー・シー/愛友園/アイリス保育園/青山製作所茨城工場/昱/アクトシステム/アドフォース/アニエスパー・ジャパン/アプリシエイト/アンリミテッド/E&Eテクノサービス/E&W/一誠商事/イバデン/茨城スバル自動車/茨城セキスイハイム/茨城トヨタ自動車/茨城トヨペット/茨城ヤナセ/茨城計算センター/茨城県信用組合/茨城県信用農業協同組合連合会/茨城県西部メディカルセンター/茨城県農業協同組合中央会/茨城県立こども病院/茨城新聞社/茨城東病院/茨城日産自動車/茨城日野自動車/茨城補成会/いばらき広域農業共済組合/上の原学園/ウエルシア薬局/宇都宮病院/ウルノ商事/NTT 東日本一南関東/エームサービス/岡田電気産業/河和田幼稚園/カスミ/霞ヶ浦医療センター/桂不動産/関東情報サービス/かんぼ生命保険/北関東マツダ/北つくば農業協同組合/キタムラ/木の間インターナショナル保育園/協同出版/クスリのアオキ/グランディハウス/クリナップ/ケアーズ保育園/ケイアイスター不動産/ケーシーエス/ケーズホールディングス/原電エンジニアリング/小泉/香陵住販/古河赤十字病院/国際医療福祉大学成田病院/コスモス薬品/小吹保育園/コマツ茨城/コンパス・ロイヤーズ/さいたま市民医療センター/さくらがわ地域医療センター/サシノバルテ/サマンサタバサジャパンリミテッド/山水

苑/サンキューストアー/志村フロイデグループ/常総ひかり農業協同組合/常陽銀行/親愛会/関彰商事/JA とりで総合医療センター/全国農業協同組合連合会茨城県本部/セントラル医学検査研究所/総合警備保障/タナカ/大和ハウス工業/ツクイ/筑波銀行/筑波大学附属病院/筑波メディカルセンター病院/ツルハ/テラソフト/デンサン/東京医科大学病院/同仁会/東部ガス/常磐大学/ドトールコーヒー/トヨタカローラ南茨城/トヨタレンタリース茨城/どろんこ保育園/那珂市社会福祉協議会/中山商事/ナザレ園/日産プリンス茨城販売/日清医療食品/日本ケミコン/日本システム・エイト/日本製鉄/日本赤十字社/日本マクドナルド/沼尻産業/ネクスコ・メンテナンス関東/ノーブルホーム/はぐくみの森あさひ保育園/羽田エアポートエンタープライズ/ひかり保育園/ひたち医療センター/日立梅ヶ丘病院/日立総合病院/日立埠頭/ひたちなか商工会議所/ひたちなか総合病院/日立物流東日本/ビッグモーター/広沢商事/富国生命保険/富士港運/富士産業/ベネッセスタイルケア/北水会グループ/北養会/ホンダベルノ茨城北/ホンダ茨城南/ホンダ四輪販売北関東/マルト/水戸医療センター/水戸協同病院/水戸済生会総合病院/水戸証券/水戸信用金庫/水戸赤十字病院/水戸農業協同組合/水戸ヤクルト販売/美並未来みなみ保育園/メフォス/メフォス東日本/山新/ヤマダホールディングス/ユートピア/ゆたか保育園/ユニクロ/陽康会/横浜ベイシェラトンホテル&タワーズ/ヨークベニマル/淀川食品/若竹大寿会/わかな保育園/渡里幼稚園

【公務員】石岡市役所/茨城県警察本部/茨城県庁/茨城県立中央病院/小美玉市役所/小美玉市消防本部/笠間市役所/かすみがうら市役所/神栖市役所/北茨城市民病院/常総市役所/筑西市役所/那珂市役所/那珂市消防本部/常陸大宮市役所/防衛省陸上自衛隊/鉾田市役所/水戸市役所/美浦村役場/結城市役所/置賜広域行政事務組合/柏市役所/埼玉県警察本部/白河市役所/東京都特別区/板橋区/平田村役場/茨城県公立学校/福島県公立学校

短期大学 ※主な就職先

【民間企業】アインホールディングス/いばらきコープ生活協同組合/茨城ダイハツ販売/茨城トヨタ自動車/茨城日産自動車/ウエルシア薬局/エコス/神栖済生会病院/カワチ薬品/クスリのアオキ/ケーズホールディングス/小泉/小山記念病院/さくらがわ地域医療センター/JX 金属/常陽銀行/スズキ自販茨城/つくば市農業協同組合/ひたちなか自動車学校/マルト/水戸信用金庫/ユージー

【保育園・幼稚園・認定こども園】内原和敬寮/大久保幼稚園/太田さくら認定こども園/小木津聖徳保育園/笠原保育園/こどものいえ認定こども園/さくらの森乳児院/さちのみ認定子ども園/すずらん石川保育園/すみよし保育園/すみれこども園/すみれ保育園/諏訪かおる幼稚園/聖光学園保育部/清心保育園/千波保育園/ときわの杜保育園/同仁会乳児院/同仁東保育園/どろんこ保育園/中郷保育園/葉山保育園/潤沼学園/ひので保育園/府中幼稚園/星の宮幼保園/堀あさひこども園/誉田養徳園/みなみ保育園/美野里幼稚園/明成田彦幼稚園

【公務員】水戸市公立幼稚園・保育所/東海村公立幼稚園・保育所
常磐大学高等学校

<2022 年度>

進 路 先		卒業生	比率
大学	国公立大学	29	7.0%
	常磐大学	92	22.3%
	他私立大学	162	39.3%
	小計	283	68.6%
短期大学	公共産業能力開発校	3	0.7%
	公立短期大学	1	0.2%
	常磐短期大学	15	3.6%
	他私立短期大学	3	0.7%
	小計	22	5.3%
専門学校	専門学校	52	12.6%
	医療系専門学校	31	7.5%
	小計	83	20.1%
就職		16	3.9%
その他		8	1.9%
合 計		412	100%

<2021 年度>

卒業生	比率
14	4.3%
75	23.1%
147	45.2%
236	72.6%
5	1.5%
0	0%
15	4.6%
3	0.9%
23	7.1%
33	10.2%
22	6.8%
55	16.9%
4	1.2%
7	2.2%
325	100%

※主な進路先

【国公立大学】茨城大学/北見工業大学/弘前大学/秋田大学/福島大学/宇都宮大学/埼玉大学/宮城大学/福島県立医科大学/横浜市立大学/群馬県立女子大学/都留文科大学/長岡造形大学/下関市立大学/周南公立大学/新見公立大学/名桜大学

【私立大学】アール医療専門職大学/足利大学/亜細亜大学/茨城キリスト教大学/江戸川大学/桜美林大学/学習院大学/神奈川大学/神奈川工科大学/鎌倉女子大学/関西学院大学/神田外語大学/関東学院大学/京都芸術大学/共立女子大学/駒澤大学/群馬バース大学/国際医療福祉大学/国際武道大学/国士舘大学/埼玉医科大学/実践女子大学/順天堂大学/女子栄養大学/昭和女子大学/城西国際大学/成蹊大学/聖徳大学/専修大学/洗足学園音楽大学/大東文化大学/高崎健康福祉大学/拓殖大学/玉川大学/千葉工業大学/中央学院大学/津田塾大学/つくば国際大学/帝京大学/帝京平成大学/桐蔭横浜大学/東海大学/東京家政学院大学/東京家政大学/東京国際工科専門職大学/東京情報大学/

東京電機大学/東京富士大学/東京保健医療専門職大学/東京理科大学(二部)/東邦大学/東北芸術工科大学/東洋大学/常磐大学/獨協大学/新潟医療福祉大学/二松学舎大学/日本女子体育大学/日本体育大学/日本大学/人間環境大学/人間総合科学大学/文化学園大学/文教大学/法政大学/武蔵野大学/ものづくり大学/ヤマザキ動物看護大学/立正大学/流通経済大学/龍谷大学/了徳寺大学/麗澤大学

【私立短期大学】 関西女子短期大学/戸板女子短期大学/東京歯科大学短期大学/常磐短期大学

【公立短期大学】 大口市立大月短期大学

【公共産業能力開発校】 茨城県立産業技術短期大学校/茨城県立筑西産業技術専門学院

【専門学校】 いばらき動物専門学校/つくば国際ペット専門学校/トヨタ東京自動車大学校/パリ総合美容専門学校
柏校/鯉渕学園農業栄養専門学校/佐伯栄養専門学校/山野美容専門学校/駿台外語&ビジネス専門学校/尚美ミュージックカレッジ専門学校/神田外語学院/水戸ビューティカレッジ/水戸経理専門学校/水戸産業技術専門学院/水戸日建工科専門学校/千葉リゾート&スポーツ専門学校/代々木アニメーション学院/大原医療ホテル観光専門学校水戸校/大原簿記情報公務員専門学校/大原簿記法律専門学校/筑波研究学園専門学校/中央理美容専門学校/中川学園調理技術専門学校/東京ウェディング&ブライダル専門学校/東京スクールオブミュージック&ダンス専門学校/東京デザイナー学院/東京ビューティアート専門学校/東京情報クリエイター工学院専門学校/東京調理製菓専門学校/東京服飾専門学校/東京文化美容専門学校/柏リハビリテーション学院/文化デザイナー学院/文化服装学院

【医療系専門学校】 茨城県立中央看護専門学校/いばらき中央福祉専門学校/つくば栄養医療調理製菓専門学校/茨城歯科専門学校/横浜実践看護専門学校/新東京歯科衛生士学校/水戸メディカルカレッジ/水戸看護福祉専門学校/西埼玉中央病院付属看護学校/土浦協同病院附属看護専門学校/東京メディカルスポーツ専門学校/東京医薬看護専門学校/日立メディカルセンター看護専門学校

【就職】 茨城県警察/匝瑳市消防/JA 茨城エネルギー株式会社/あいおんの里水戸/イリソ電子工業茨城工場/旭物産/株式会社ジー・フィールド/水戸プラザホテル/水戸京成百貨店/土浦アルファホテル

智学館中等教育学校

<2022 年度>

進 路 先		卒業生	比率
大学	国公立大学	3	10.7%
	常磐大学	1	3.6%
	他私立大学	21	75.0%
	小計	25	89.3%
短期大学	常磐短期大学	0	0%
	他私立短期大学	1	3.6%
	小計	1	3.6%
専門学校	医療系専門学校	0	0%
	小計	0	0%
その他		2	7.1%
合 計		28	100%

<2021 年度>

卒業生	比率
5	18.5%
5	18.5%
15	55.6%
25	92.6%
0	0%
0	0%
0	0%
1	3.7%
1	3.7%
1	3.7%
27	100%

【国公立大学】 筑波大学/福島県立医科大学

【私立大学】 アール医療専門職大学/茨城キリスト教大学/桜美林大学/関西外国語大学/北里大学/京都美術工芸大学/自治医科大学/聖心女子大学/帝京大学/帝京科学大学/東京工科大学/東京国際大学/東京女子大学/東洋大学/常磐大学/日本赤十字看護大学/白鷗大学/文教大学/法政大学/武蔵大学/ヤマザキ動物看護大学/流通経済大学

【私立短期大学】 茨城女子短期大学

(5) 役員の概要

定員数 理事 10名～13名, 監事 2名 現員数 理事 10名, 監事 2名

区 分 (選任条項)	2023年5月1日現在			2022年5月1日現在		
	氏 名 (就任年月日)	常・非	主な現職等	氏 名 (就任年月日)	常・非	主な現職等
理 事 長 (第5条第2項)	小櫃 重秀 (2019年4月1日)	常勤		小櫃 重秀 (2019年4月1日)	常勤	
理 事 (第6条第1項第1号)	富田 敬子 (2019年4月1日)	常勤	常磐大学・常磐短期大学学長	富田 敬子 (2019年4月1日)	常勤	常磐大学・常磐短期大学学長
理 事 (第6条第1項第2号)	中崎 啓子 (2017年4月1日)	非常勤	常磐短期大学同窓会みわの会会長	稲葉 節生 (2021年4月1日)	非常勤	元茨城県教育委員会教育長
	加藤 高藏 (2021年4月1日)	非常勤	明利酒類(株)代表取締役	中崎 啓子 (2017年4月1日)	非常勤	常磐短期大学同窓会みわの会会長

	柴原 宏一 (2023年4月1日)	常勤	常磐大学特任教授, 元茨城県教育委員会 教育長	加藤 高藏 (2021年4月1日)	非常勤	明利酒類(株)代 表取締役
理事 (第6条第1項第3号)	幡谷 信勝 (2013年1月31日)	非常勤	元茨城県信用組 合副理事長	幡谷 信勝 (2013年1月31日)	非常勤	元茨城県信用組 合副理事長
	田中 俊郎 (2015年3月26日)	非常勤	慶應義塾大学名 誉教授	田中 俊郎 (2015年3月26日)	非常勤	慶應義塾大学名 誉教授
	小櫃 重秀 (2014年4月1日) 〔再掲〕	常勤		小櫃 重秀 (2014年4月1日) 〔再掲〕	常勤	
常任理事 (第6条第1項第4号)	横須賀 敬章 (2015年3月1日)	常勤	(学)常磐大学事 務局長	横須賀 敬章 (2015年3月1日)	常勤	(学)常磐大学事 務局長
	大槻 行徳 (2019年3月1日)	常勤	(学)常磐大学総 務課統括	渡部 茂己 (2019年3月1日)	常勤	常磐大学幼稚園 園長
	安藤 昌俊 (2023年1月1日)	常勤		前沢 裕己 (2019年4月1日)	常勤	
				大槻 行徳 (2019年3月1日)	常勤	(学)常磐大学総 務課統括
監事 (第7条第1項)	荒川 誠司 (2003年4月1日)	非常勤	弁護士, 荒川法律 事務所	荒川 誠司 (2003年4月1日)	非常勤	弁護士, 荒川法律 事務所
	若山 実 (2005年6月1日)	非常勤	税理士, 若山実税 理士事務所	若山 実 (2005年6月1日)	非常勤	税理士, 若山実税 理士事務所

(6) 評議員の概要

定員数 21名～27名 現員数 24名

	2023年5月1日現在		2022年5月1日現在	
区分 (選任条項)	氏名 (就任年月日)	主な現職等	氏名 (就任年月日)	主な現職等
法人の職員 (第24条第1項1号)	河野 敬一 (2021年5月27日)	常磐大学副学長	河野 敬一 (2021年5月27日)	常磐大学副学長
	柏 正則 (2021年4月1日)	常磐大学高等学校校長	柏 正則 (2021年4月1日)	常磐大学高等学校校長
	酒巻 洋一 (2020年3月1日)	常磐短期大学副学長	酒巻 洋一 (2020年3月1日)	常磐短期大学副学長
	水嶋 陽子 (2017年3月1日)	常磐大学人間科学研究科長	水嶋 陽子 (2017年3月1日)	常磐大学人間科学研究科長, 人間科学部長
	西野 光範 (2017年3月1日)	常磐大学学生支援センター統 括	西野 光範 (2017年3月1日)	常磐大学学生支援センター統 括
	吉武 政治 (2019年3月1日)	智学館中等教育学校校長	吉武 政治 (2019年3月1日)	智学館中等教育学校校長
卒業生 (第24条第1項2号)	池田 正則 (2005年3月1日)	常磐大学同窓会会長 水戸市社会福祉協議会	池田 正則 (2005年3月1日)	常磐大学同窓会会長 水戸市社会福祉協議会
	中崎 啓子 (2007年4月1日)	常磐短期大学同窓会みわの会 会長	中崎 啓子 (2007年4月1日)	常磐短期大学同窓会みわの会 会長
	山根 将大 (2023年3月1日)	常磐大学高等学校卒業生	小林 千代子 (2015年3月1日)	常磐学園同窓会(常磐大学高等 学校同窓会) 副会長
在学生の保護者 (第24条第1項3号)	木村 勤 (2022年4月1日)	常磐大学後援会会長	木村 勤 (2022年4月1日)	常磐大学後援会会長就任予定 者
	石井 ともえ (2023年4月1日)	常磐短期大学父母の会会長就 任予定者	一毛 由起子 (2022年4月1日)	常磐短期大学父母の会会長就 任予定者
	横須賀 靖 (2023年4月1日)	常磐大学高等学校PTA会長就任 予定者	軍司 雅明 (2021年4月1日)	常磐大学高等学校PTA会長
学識経験者 (第24条第1項4号)	石渡 千恵子 (2007年4月1日)	石渡産婦人科病院副院長 元茨城県教育委員会委員長	稲葉 節生 (2021年4月1日)	元茨城県教育委員会教育長
	師岡 文男 (2009年6月1日)	上智大学名誉教授	石渡 千恵子 (2007年4月1日)	石渡産婦人科病院副院長 元茨城県教育委員会委員長

橋本 五郎 (2009年9月10日)	読売新聞特別編集委員	師岡 文男 (2009年6月1日)	上智大学名誉教授
遠山 勤 (2010年3月26日)	元㈱常陽銀行顧問, 元(財)常陽地域研究センター理事長	橋本 五郎 (2009年9月10日)	読売新聞特別編集委員
柴原 宏一 (2021年4月1日)	常磐大学特任教授, 元茨城県教育委員会教育長	遠山 勤 (2010年3月26日)	元(財)常陽銀行顧問, 元(財)常陽地域研究センター理事長
坂本 達哉 (2012年4月1日)	早稲田大学政治経済学術院教授, 慶應義塾大学名誉教授	柴原 宏一 (2021年4月1日)	常磐大学特任教授, 元茨城県教育委員会教育長
内藤 学 (2021年4月1日)	水戸ヤクルト販売(株)代表取締役社長	坂本 達哉 (2012年4月1日)	早稲田大学政治経済学術院教授, 慶應義塾大学名誉教授
山口 正雄 (2015年4月1日)	銚田市教育委員会委員	内藤 学 (2021年4月1日)	水戸ヤクルト販売(株)代表取締役社長
加藤 高藏 (2018年4月1日)	明利酒類(株)代表取締役, (一社)水戸観光コンベンション協会会長	山口 正雄 (2015年4月1日)	銚田市教育委員会委員
太田 敦 (2023年4月1日)	株式会社スノーピーク経営企画部シニアマネージャー	山口 高史 (2017年12月1日)	国立病院機構水戸医療センター名誉院長
飛田 忠道 (2023年4月1日)	とびた耳鼻咽喉科院長	加藤 高藏 (2018年4月1日)	明利酒類(株)代表取締役, (一社)水戸観光コンベンション協会会長
米野 琢哉 (2023年4月1日)	国立病院機構水戸医療センター院長		

(7) 職員の概要

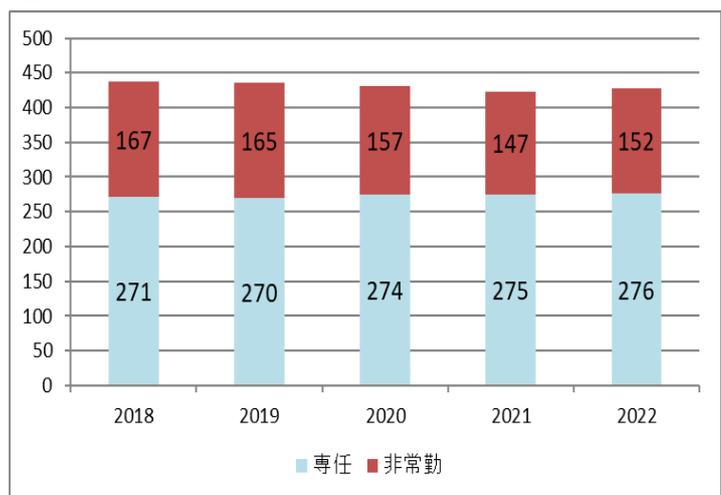
① 教育職員数 (2022年5月1日現在)

			人数
常磐大学 大学院	専任	教授	0 (0)
		准教授	0 (0)
		講師・助教	0 (0)
	小計		0 (0)
	非常勤	12 (10)	
常磐大学	専任	教授	57 (21)
		准教授	44 (20)
		講師・助教	28 (14)
	小計		129 (55)
	非常勤	85 (31)	
常磐短期 大学	専任	教授	8 (3)
		准教授	9 (4)
		講師・助教	5 (2)
	小計		22 (9)
	非常勤	23 (17)	
常磐大学 高等学校	専任	84 (27)	
	非常勤	18 (11)	
智学館中等 教育学校	専任	32 (10)	
	非常勤	4 (2)	
常磐大学 幼稚園	専任	9 (8)	
	非常勤	10 (10)	
合計	専任	276 (109)	
	非常勤	152 (81)	

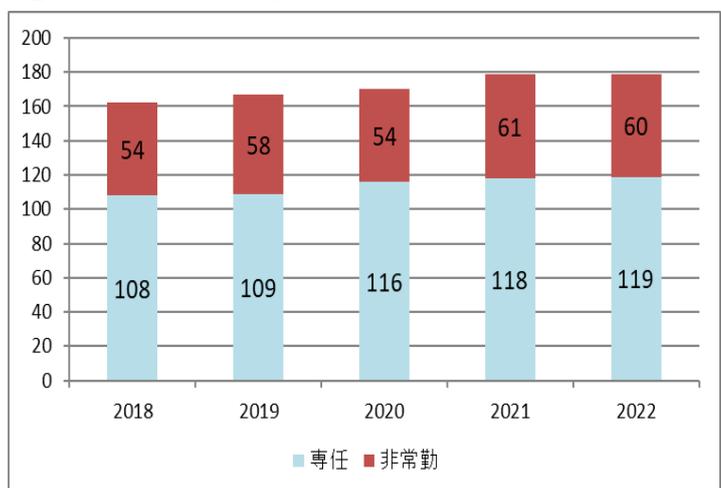
② 事務職員数 (2022年5月1日現在)

		人数
常磐大学大学院	専任	108 (62)
常磐大学	非常勤	45 (38)
常磐短期大学	専任	6 (3)
常磐大学高等学校	非常勤	7 (5)
智学館中等 教育学校	専任	4 (2)
	非常勤	4 (3)

過去5年間の教育職員推移



過去5年間の事務職員数推移



常磐大学幼稚園	専任	1 (0)
	非常勤	4 (2)
合計	専任	119 (67)
	非常勤	60 (48)

※()内の数字は、女性の人数を内数で示す。

2 事業の概要

(1) 2022 年度事業報告

学校法人常磐大学

1 人事政策

(1) 教職員人事制度

① 事務系職員の職位運用体系の整備

「学校法人常磐大学事務職員の職位に関する規程」に定める職位ごとに必要とされる能力に基づき、役職、職位の要件および職務の級との関係性における齟齬を解消し、適正な運用が行われた。

② 65 歳定年（引き上げ）の検討

これまで定年年齢の引き上げは、新規採用人事や給与体系の抜本的な改革と密接不可分であることから慎重な検討を進めてきた。2023 年度から公務員の定年年齢が段階的に 65 歳に引き上げとなることを踏まえ、現行の公務員の定年年齢との 2 歳の優位性を残存させ、67 歳を定年年齢とし、2023 年度から段階的に引き上げる方向性を決定した。

③ 労働時間管理の厳格化とそれに伴う環境整備の推進

時間外労働の是正（残業時間の上限規制）、過労死防止のための健康確保措置の拡充等が盛り込まれた働き方改革関連法を踏まえ、引き続き、定時退勤の勧奨、育児や健康状態など個々の職員が抱える多様な事情への柔軟な対応や、年次有給休暇を取得しやすい環境の整備を推進した。

(2) 人員計画・人事採用計画

① 学校法人全体の現状を踏まえた教職員に関する人事政策の策定

全体人数、教授数ともに設置基準を充足している状況の下、定年や任期満了等に伴う欠員充足については、引き続き、その専門性や必要性を見極めた適正数の確保に努めた。

② 退職者推移、非常勤職員の無期雇用転換を踏えた人員計画、人事採用計画の策定

人事計画について、年齢構成の平準化、女性の管理職登用の促進、政府の雇用方針等を踏まえた採用計画を立案し、新卒および中途（経験者）採用を積極的に行ったほか、非常勤職員 2 人の無期雇用転換を受け入れた。

(3) 計画的な人材育成、研修施策の実施

① 研修体系に沿った体系的な研修の実施

新規採用職員に対する学内研修のほか、日本私立大学連盟の研修プログラムによる目的別研修を中心とした研修計画を引き続き実施した。また、新任管理職者、女性リーダー育成、若手職員育成、管理職研修等の外部研修に派遣し、教育訓練の機会を積極的に設けた。加えて、大学職員として必要な高等教育の基礎的知識、スキルを体系的に習得するオンデマンド研修の導入を検討し、2023 年度から実施することを決定した。

② 自己啓発等への取り組みと FD・SD への参加を通じた人材育成への取り組み

各種の知識、能力、技量の向上を目的とした自己啓発等への取り組みの推奨と「教職協働」による学校運営を推進するため、FD および SD に教育職員と事務職員が相互に参加するプログラムとして 大学院を含めた FD フォーラム等への参加を義務付け、引き続き連携強化に努めた。

③ 女性管理職者の登用促進

女性活躍推進法による一般事業主行動計画を踏まえ、女性管理職者の登用促進に努め、新たに 2 人を統括に登用した。

(4) 大学教員の人事考課制度の導入に向けた検討

大学教員の人事考課については、未だ導入の検討段階であり、引き続き他大学の先進的な事例研究に努めたほか、教員が昇格する際の研究業績の評価基準・方法を見直すことで、より適正な透明性の高い審査を実施した。

(5) 認証評価指摘事項を踏まえた人事面からの対応

短期大学基準協会からの指摘事項および2023年度における大学の第三者評価受審を踏まえ、学長の主導によって、学科ごとに専任教員の研究業績の点検を行い、概ね過去5年間の研究業績がない、または著しく不足している場合には、学長より研究業績の伸張を促した。

項目	目標	2022年度実績
女性管理職の登用	30%	30.8%
時間外労働時間数（事務職員）	1カ月平均6時間以下/人	5.7時間/人

2 財務基盤

(1) 事業活動収支差額均衡化の維持

経営の安定性維持のため、学生生徒の入学者動向や在籍状況を踏まえた予算の配分に注力し、継続して収支均衡化の調整を図った。

項目	2020年度実績	2021年度実績	2022年度実績
経常収支差額比率	+0.8%	+6.4%	+4.4%
事業活動収支差額比率	+1.4%	+6.6%	+4.1%

(2) 事業活動収入の安定的な確保

自己財源である学生・生徒等納付金の確保と納付金以外での安定的な収入確保

① 各設置学校入学定員の確保による自己財源の確保

項目	2021年度実績	2022年度実績
大 学	3,614,036,800円	3,680,461,800円
短 期 大 学	430,224,000円	392,533,000円
高 等 学 校	609,534,750円	645,040,750円
中 等 教 育 学 校	85,140,970円	80,540,400円
学生生徒等納付金収入計	4,738,936,520円	4,798,575,950円

*幼稚園については、2019年10月より無償化（すべて補助金扱い）

*各設置学校入学者数については、2023年度入試状況にて詳細記載

② 国庫・地方公共団体補助金の維持および確保

項目	2021年度実績	2022年度実績
国 庫 補 助 金 収 入	504,716,240円	583,525,960円
地方公共団体補助金収入	524,217,385円	537,873,092円
施設型給付費収入	130,838,504円	144,976,042円
補 助 金 収 入 計	1,159,772,129円	1,266,375,094円

③ 寄付募集活動の継続および強化

教育活動・学習支援のための環境整備を目的とした「常磐大学高等学校創立100周年募金」を新設し、募集を開始した。「見和キャンパス開設50年施設整備事業募金」については、2023年3月31日をもって終了した。

募金総額累計（内 2022年度）	210,614,596円	(9,845,190円)
募金件数累計（内 2022年度）	6,102件	(393件)

ア 見和キャンパス開設50年施設整備事業募金の継続（2016年4月～2023年3月終了）

募金額累計（内 2022年度）	16,627,521円	(1,173,190円)
募金件数累計（内 2022年度）	1,095件	(143件)

イ 諸澤幸雄奨学金制度（給付型奨学金）への募金強化（2009年11月～）

募金額累計（内 2022年度）	121,502,398円	(881,000円)
募金件数累計（内 2022年度）	4,742件	(145件)

諸澤幸雄奨学金給付実績累計（内 2022年度）

	I種 奨学生	II種 奨学生	給付額
大 学 院	1人（1人）	0人（0人）	180,000円（180,000円）

大 学	108人(9人)	54人(3人)	*35,816,600円 (2,637,450円)
短期大学	10人(0人)	11人(0人)	*4,950,000円 (0円)
高等学校	29人(0人)	11人(0人)	2,804,160円 (0円)
中等教育学校	15人(2人)	4人(0人)	2,009,040円 (108,000円)
計	163人(12人)	80人(3人)	45,759,800円 (2,925,450円)

※緊急Ⅱ種奨学生を含む

ウ 教育および学術研究の充実・発展のための募金の継続 (2009年11月～)

募金額累計 (内 2022年度)	68,623,677円 (3,930,000円)
募金件数累計 (内 2022年度)	163件 (3件)

エ 常磐大学高等学校創立100周年募金(仮称)の新設(教育環境整備として)
(2022年4月～2032年3月)

募金額累計 (内 2022年度)	3,861,000円 (3,861,000円)
募金件数累計 (内 2022年度)	102件 (102件)

④ 資産運用による増収の検討

理事会および資産運用委員会において、本法人の資産を適正かつ効率的に運用し、その果実と差益をもって本法人の発展に資するための検討を行った。学校法人常磐大学資産運用規則を遵守の上、2022年度は余裕資金2億円と第2号基本金引当特定資産繰入資金1億円を原資に社債および外国債券による運用を開始し、1,490,860円の利息収入があった。

(3) 事業活動支出の抑制

事業活動収支差額の均衡化を図るため、継続して在籍者数に応じた予算の配分調整と適正な執行管理を実施

① 経常的経費支出の適正化

② 教育研究経費支出の適正化

2022年度決算における財務比率は、下表のとおり教育研究経費比率32.8%(全国平均34.3%)、管理経費比率6.9%(全国平均8.3%)、人件費比率55.8%(全国平均51.3%)と全国平均*と比較して経費比率がやや低値での比率構成となった。また、法人としての課題でもある事業活動収支差額の均衡化においては、事業活動収支差額比率4.1%(全国平均6.4%)と昨年度に続き、安定した経営状況を維持することができた。今後も教育研究の充実を図るとともに、支出の適正化を図り、財務基盤の安定に努めていく。※日本私立学校振興・共済事業団「今日の私学財政」(令和4年度版 大学・短期大学編)

項目	目標	2022年度実績
管理経費比率	9%以下	法人：6.9%(大学：6.5%・短期大学：9.2%)
教育研究経費比率	30%以上	法人：32.8%(大学：31.3%・短期大学：28.7%)
事業活動収支差額比率	±0%以上	法人：+4.1%(大学：+15.0%・短期大学：-7.2%)
人件費率	60%以下	法人：55.8%(大学：46.7%・短期大学：68.1%)

3 施設設備

(1) 教育環境の整備

① 見和キャンパス新校舎(新B棟)建築工事を開始〔2023年12月竣工予定〕

新校舎(新B棟)の建築工事を2022年12月に開始した。

② 諸澤みよ記念館の外壁塗装等修繕工事の実施

建物の維持保全のため、諸澤みよ記念館の外壁塗装等修繕工事を実施した。

(2) 安全安心な環境の維持整備

① 見和キャンパス構内駐車場整備工事の実施

見和キャンパス構内における来賓駐車場の慢性的な不足の解消および未整備であったバス専用駐車場を確保するため駐車場整備工事を実施した。

② 見和キャンパス構内電話交換機更新の実施

設置後7年が経過した見和キャンパス構内電話交換機の更新工事を実施した。

項目	目標	2022年度実績
整備計画実行率	100%	100%

耐震化率	全国平均以上（2020年度全国平均 94.0%） ※2023年度に100%となる計画	92.9% ※2023年度に100%となる計画
------	---	----------------------------

4 管理運営

- (1) 学校法人常磐大学中期計画（2019－2023）「TOKIWA VISION 2023」の進捗管理
評議員会、理事会において、各計画項目に対する達成状況を確認した。必要に応じて行動計画および目標数値の見直しを行った。
- (2) 学校間の相互交流・連携強化
 - ① 学校間連携協議会の開催および連携事業の推進
学校間連携協議会を継続的に開催し、入試・広報・進路の情報共有を中心に学校間の連携を図った。
- (3) 幼保連携型認定こども園の検討
検討ワーキンググループの設置に向けて、準備作業を進めた。
- (4) 卒業生との連携強化
常磐大学高等学校創立100周年記念式典・記念イベントおよびホームカミングデーを開催した。多くの卒業生が参加し、交流を深める機会となった。

常磐大学

＜アドミッション・ポリシー＞

本学の学則等に示された教育の理念・教育の方針・教育の目的等を理解し、社会や地域に貢献するための社会適応力および社会活動力を身に付ける意欲のある人を求めます。

1. 本学の教育の理念を理解し、本学で学ぶために必要な意欲と基礎学力を備えている。
2. 社会で求められる基礎能力、社会で活躍するために必要な応用能力、さらに基礎能力と応用能力の結合を通して、新たな課題に挑戦する発展的な能力を身に付ける意欲を持っている。
3. 人間や人間の発達、社会や地域にかかわる様々な問題に関心を持ち、広い視野と柔軟な思考によって課題解決に向けて積極果敢に取り組む意欲を持っている。
4. 本学で修得する教養と専攻領域の広く深い知識・スキルを駆使して、社会や地域に貢献しようという意志を持っている。

＜カリキュラム・ポリシー＞

本学の学則等に示された教育の理念・教育の方針・教育の目的等と養成したい学生像に基づき、全学生を対象とする科目とそれぞれの学部・学科の教育目標にあわせた科目を2つの大きな柱として、それぞれの学部・学科に合わせたカリキュラムを編成します。

1. 現代社会に生きる人間として不可欠な素養を身につけるとともに、幅広い視点から物事を判断する知識を修得するため、多様でかつ調和のとれた教養教育を実施する。
2. 国際共通語としての英語に焦点を当て、一人ひとりが段階的に学べるように英語科目を編成する。
3. 大学での学びの基礎として、「読む・聴く」「書く・語る・伝える」「調べる」といった基本技法、統計によりデータを的確に集めてまとめる手法、そして、コンピュータで情報を分かりやすく整理し表現するスキルが身につくための初年次教育を実施する。
4. 基礎・応用・発展を明確にするカリキュラム分類コードによる系統的な学習と、自由なカリキュラム構築による学際的な学習を実施する。
5. 問題を発見して解決できる応用能力を養成するために、地域社会との連携も視野に入れた学部・学科を横断するプロジェクト型学習を実施する。

＜ディプロマ・ポリシー＞

本学の学則等に示された教育の理念・教育の方針・教育の目的等を理解して広く深い教養と知識を学んだ後、社会や地域に貢献するための社会適応力および社会活動力を身につけた人材を養成します。

1. 目的意識をもって精力的に学んだ後、職業生活や社会生活を自立的に営みながら、さらなる専門性と創造性を高め、人格を磨いていくことができる。（知識・理解、態度）
2. グローバル化の中で展開する知識基盤社会において、豊かな国際感覚で問題を捉え、その問題解決に真摯に取り組むことができる。（知識・理解、思考・判断、技能）

3. 集団の中で状況に応じて自分の役割を意識し、役割遂行に向けて最善の努力を惜しまず、積極的に柔軟性をもった思考力を身につけている。(思考・判断, 態度)
4. プロジェクト型の取り組みで企画を創造的に立案し、チームワークを高めることに貢献して目標達成に向けて真摯に努力することができる。(知識・理解, 態度)

1 教育研究

(1) トキワ de SDGs の推進 (国連アカデミック・インパクトの基本原則の促進)

- ・イギリスに本部を置く Times Higher Education (THE) が主催する「Impact Ranking 2022」に初エントリーした結果が公表となり、本学が総合で「1001+」にランクインした。ゴール別では、ゴール3「すべての人に健康と福祉を」で、401位～600位のランクに入った。
- ・全学共通科目「プロジェクトC」において、「キャンパスから始めるSDGs—地球市民として生きるために」という副題のもと、春semesterには<課題発見・解決型/ミニプロジェクト>に、秋semesterには<発信・提言型/統合的プロジェクト>に履修学生が取り組み、報告会を開催した。
- ・2021年度～2023年度「日本学生支援機構海外留学制度(協定派遣)」に本学の派遣留学制度が「SDGsで世界をつなぐ常磐大学交換留学(派遣)プログラム」として採択され、2022年度派遣学生7人が、SDGsの視点から課題を設定し、留学中およびその前後に調査に取り組み、報告書を執筆。本学SDGs専用HPに掲載した。
- ・水戸市主催「ヒューマンライフシンポジウム2022」に共催参加し、第2部「SDGs×地域×ジェンダー」をテーマにしたトークセッションで、富田学長がゲストスピーカーとして登壇した。
- ・「常磐大学・常磐短期大学2021年度SDGs事業報告書」を取りまとめ、本学SDGs専用HPに掲載した。

(2) 国際化・グローバル化への対応のための教育の充実

① 英語を中心とした外国語教育の充実 (Framework of Tokiwa English Curriculum (FTEC) の推進を含む)

多言語・多文化社会に対応した語学教育を推進する観点から、ガイダンス等において英語以外の語学の学修の重要性等を説明し、関連する授業科目の積極的な履修を促すとともに、学生の安定的な履修を可能とするため、一部の授業科目(群)について開講方法等を変更した。

2018年度から開始した「Framework of Tokiwa English Curriculum (FTEC)」については、成果の量的検証として、2022年度1年生のCASECの結果を分析し、次年度以降に向けた授業改善に取り組んだ。また、英語外部資格試験を利用した単位認定制度については、学生の効果的な利用を促すため、CASECによる単位認定制度に一本化した。

② 国際交流語学学習センターにおける語学学習支援の充実

ア Talk Time: 英語を母国語とする教職員による外国語会話交流活動「Talk Time」を、対面で実施した。また、韓国語「Talk Time」タイ語「Talk Time」ベトナム語「Talk Time」については、交換留学生在が担当し、対面で実施した。

イ Drop-in Lab: 英語学習相談「Drop-in Lab」を実施し、留学希望者および英語の外部試験対策を希望する学生等を対象として、対面で語学学習支援を行った。

ウ 留学準備・英語対策講座: 交換留学制度等を利用して在学中の派遣留学を目指す学生や、外部英語試験(TOEFL iBT, TOEIC, 英検等)でさらなる級やスコアのアップを狙う学生を対象に、2月に4日間の留学準備・英語対策講座を開講した。

エ TOKIWA Spirit: 外国語によるプレゼンテーションイベントを12月にオンラインで開催し、今年度は、6組8人の学生による英語、韓国語の発表があった。

オ 学内TOEIC (TOEIC IP) テスト: 学内TOEIC (TOEIC IP) テストのオンライン版を、春semester期間に1回、秋semester期間に3回実施し、TOEICによる英語力確認の機会を提供した。

カ Tokiwa English Award: 全学的な英語表彰制度「Tokiwa English Award」を年2回実施。CASEC, TOEIC, 英検等で一定のスコア・級を取得した学生を表彰し、英語学習への持続的な意欲向上を図った。今年度は、表彰基準の見直しを図り、次のランクへのステップアップにつなげた。

③ 外国人向け日本語教師養成

平成31年3月「日本語教育人材の養成・研修の在り方について(報告)」(文化審議会国語分科会)に示された「必須の教育内容」等を踏まえ、人間科学部コミュニケーション学科において、法務省告

示日本語教育機関の教員の要件に該当する「日本語教育に関する課程」（日本語教師養成課程）のカリキュラムを一部変更し、教育内容の充実を図った。

(3) 数理・データサイエンス教育の充実

数理・データサイエンス・AIに関する知識および技術について体系的な教育を行い、学生の関心を高め、かつ、それらを適切に理解し、活用する基礎的な能力を育成するため、文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）」の認定要件に基づき、統計や情報処理に関する一部の授業科目について教育内容の見直しを行った。

(4) 教学マネジメントの確立

① 内部質保証システムの恒常化および実質化

各学部・研究科において点検・評価活動に取り組んだ。具体的には、建学の精神と教育の効果、教育課程と学生支援、教育資源と財的資源、リーダーシップとガバナンス等の項目別に当年度の実現計画を策定し、適時対応状況を確認するとともに、改善策を検討した。

② 学修成果の可視化

学校教育法施行規則第165条の2第2項の規定等を踏まえ、卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー〈DP〉）と教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー〈CP〉）の一貫性の確保に特に意を用いつつ、各学科等の主体により、次の各事項に取り組んだ。

- ・単位修得状況の振り返りを通じた「成績の評価方法・基準」の点検
- ・成績評価基準の可視化および適正化（一部の授業科目における、成績評価基準・評価指標（ルーブリック）を用いた成績評価の導入）
- ・アセスメント・ポリシーの見直し
- ・履修系統図（表／図形式）の見直し

③ 適切な教育プログラムの編成・実施

上記①における点検・評価活動の結果等を踏まえ、より適切に教育プログラムを編成するため、次の学科等においてカリキュラムを一部変更した。

- ・大学院人間科学研究科 修士課程
- ・総合政策学部 学部共通科目、経営学科、法律行政学科および総合政策学科

④ 教職員の資質向上

一般財団法人全国大学実務教育協会「能動的学修の教員研修リーダー講座」に本学教員（1人）を派遣した。また、学外者（外部講師）による講演および学内教職員の発表等を通じて、昨今の高等教育の動向や授業の内容および方法の改善に関わる情報の共有、認識の確立等を図るため、「FDフォーラム」および「SD研修会」（大学設置基準第11条第1項関係）を開催した（合同開催）。

(5) 教育研究活動の活性化に向けた外部資金獲得

科学研究費助成事業については、制度等説明会の開催、個別相談等を通じて、申請の支援および奨励等に取り組んだ。学内研究助成では、研究代表者として科学研究費助成事業へ申請し不採択となった研究で、次年度に同様の申請を行う研究を支援するための研究種目（特別奨励研究助成）を設けている。また、教育および学術研究の充実・発展のための寄付金については、資金の募集のほか、学内公募等による資金の活用に取り組み、2科目の寄付講座を開設するとともに、1件の教育研究活動を採択した。

2022年度の状況[大学・短期大学合計、()内は2021年度]

科学研究費助成事業 63件／27,154,016円 (61件／20,418,620円)

(※厚労科研を含む。)

受託研究 1件／391,000円 (1件／465,000円)

寄付金等 1件／700,000円 (1件／700,000円)

寄付講座 2科目開講 (2科目開講)

教育研究助成 1件／200,000円 (3件／450,000円)

項目	目標	2022年度実績
語学学習支援企画への参加者数	150人	Talk Time (英語) 127人, Talk Time (韓国語) 116人, Talk Time (タイ語・ベトナム語) 39人, 留学準備・英語対策講座 5人, TOKIWA Spirit 8人, Drop-in Lab 77人 合計 372人 (延べ数)

語学試験合格者数	223 人	Tokiwa English Award 受賞者合計 149 人（ダイヤモンド賞 0 人，プラチナ賞 2 人，ゴールド賞 6 人，シルバー賞 32 人，ブロンズ賞 109 人）
外部資金獲得額 （大学・短期大学合計）	17,000 千円	27,745 千円
科研費獲得件数	34 件	28 件
FD 活動参加率	75%以上	79.1%

2 学生支援

(1) 学生満足度調査の実施

前回と同様に WEB による調査（対象学生のメールアドレスに回答 URL を記載したメールを配信）を実施した。調査対象者数 3,137 人のうち、1,963 人から得られた回答を集計し、総合満足度は 88%の結果であった。

(2) 学修支援体制の充実

① 「入学前教育の取り組み」、「基礎学力補完のための取り組み」および「正課の授業科目の教育内容」等の連携

2022 年度は、次の諸点を踏まえて、入学前教育（2023 年度入学者対象）を実施した。

- ・入学前教育の「大学共通課題」において所定の基準に到達していることを、「学びの技法Ⅱ」（1 年次秋semester必修科目）の履修の要件とする。
- ・入学前教育の「大学共通課題」について、入学時に所定の基準に到達していない者に対しては、入学後も「基礎能力アッププログラム」の取り組み等を通じて、その達成を支援する。また、基礎能力補完および就職試験対策に関わる e ラーニング教材「竹びと SPI」の取り組み状況を、「キャリア形成と大学」（1 年次秋semester必修科目）の成績評価の一部に反映することにより、正課の授業科目の教育内容との連携を図った。

② 「高等教育の修学支援新制度」の円滑な運用

校内の各種奨学金と日本学生支援機構奨学金を学生に案内するとともに、文部科学省による「高等教育の修学支援新制度」の対象機関として認定を受け、344 人（内、新規採用者 104 人）の学生が採用された。なお、「学びの継続のための『学生支援緊急給付金』」は 2021 年度をもって募集終了のため、2022 年度に採用実績はない。

(3) 課外活動の支援

学長があらかじめ定めた感染症対策が講じられていると学生支援センター長が認めた場合に限り活動の 2 週間前までに（継続的に活動する場合は前月 15 日までに）学生支援センターへ活動計画書を提出することで活動を認めた。課外活動参加者は 1,272 人で、学生全体に占める割合は 40.5%となり、前年度から 3.5 ポイント増加した。学園祭は 3 年ぶりに 2 日間とも模擬店販売を含めたイベントを対面により実施した。

(4) キャリア支援プログラムの充実

① インターンシップ参加促進（1・2 年生対象のものを含む）

- ・「低学年向けインターンシップ講座」の動画を作成し「2022 年度 1, 2 年生向けキャリアガイダンス」から配信した。
- ・低学年も対象とする NPO 法人雇用人材協会およびキャリアタスのインターンシップ情報をグーグルクラスルーム「2022 年度 1, 2 年生向けキャリアガイダンス」から配信した。

② 1・2 年生向け就職支援プログラムの充実（e ラーニング教材「竹びと SPI」の積極的な活用、「竹びと SPI 模試」の利用促進を含む）

- ・「大学 2 年生向けキャリア形成講座」としてハローワークから講師を招いて実施した。
- ・「竹びと SPI」（オンライン）による模擬試験を大学 3 年生および短大 1 年生（幼児教育保育学科は希望者のみ）を対象とし、春semesterは「竹びと SPI」の「テストセンター・固定 2」、秋semesterは「テストセンター・固定 1」を実施した。春semesterの実施は今年度が初めてで、希望する大学 2 年生

にも受験を促した。また、春・秋ともに試験終了後、受験した模擬テストの問題の中から何問かをピックアップして解説する「模擬テスト解説会」を実施した。(株式会社ライズ担当)

また、「竹びとSPI」の説明と使用方法についての資料をグーグルクラスルーム「24卒向けキャリアガイダンス(人間科学部・総合政策学部)」に掲載し利用を促した。

(5) その他

「日本ウクライナ大学パスウェイズ」に参画し、2022年9月に、ウクライナ避難民学生1人を、科目等履修生(留学履修生)として受け入れ、奨学金支給等の支援を行った。

項目	目標	2022年度実績
学生満足度(学生支援・キャリア支援)	80%以上	88%
退学率	2%以下	2.4%
課外活動加入率	35%以上	40.5%
就職率	98%以上	97.4%
公務員合格者数(教員除く)	30人以上	48人
情報メディアセンター(図書館)の利用者数(平日夜間・土曜日)(大学・短期大学合計)	平日夜間60人以上/日 土曜日130人以上/日	平日夜間46.8人/日 土曜日33.4人/日
貸出冊数(大学・短期大学(教員・学生)合計)	年間10冊以上/人	4.1冊/人

3 地域連携・国際交流

(1) 地域における課題の解決のための取り組み

① 地域の自治体、産業界との連携

ア 水戸ホーリーホックとのコラボデー開催

イ 教員の自治体、企業への委員、講師派遣：自治体(茨城県、北海道、岩手県、東京都、神奈川県、群馬県、兵庫県、水戸市、高萩市、日立市、常陸太田市、ひたちなか市、那珂市、茨城町、笠間市、桜川市、かすみがうら市、結城市)教育機関(茨城県立水戸桜ノ牧高等学校常北校、水戸市立常磐小学校)企業・団体(社水戸観光コンベンション協会、㈱マルト、ヒューマンアカデミー㈱、みと好文カレッジ、水戸市立中央図書館、練馬区保育園園長会、茨城県俳句協会、特定非営利活動法人すずらんチャイルドケア、常陽藝文センター藝文学苑、国際交流ネットワークさくら、茨城労働局、社会福祉法人同仁会、茨城県議会、国立歴史民俗博物館、茨城県立歴史館、札幌少年刑務所、兵庫県立病院、常陸太田市消防本部、茨城県鹿行生涯学習センター、公益社団法人茨城県看護協会)

ウ 学生のボランティア活動：水戸市社会福祉協議会学習支援ボランティア、水戸市教育委員会スクールサポーター、行方ふれあいスタディ指導員、日立市教育支援ボランティア、日立市消毒・ボトル配布等支援ボランティア、那珂市ひまわりフェスティバルスタッフ補助ボランティア、東海村社会福祉協議会スマホサポーター・学習支援ボランティア、視覚障害者サウンドテーブルテニス茨城大会ボランティア、日本在宅救急医学会学術総会ボランティア、太子特別支援学校支援ボランティア、ザ・ヒロサワシティ運営ミーティングアドバイザー、勝田全国マラソン大会運営ボランティア、フリースクールに通う子どもたちの活動支援

エ 学生による地域連携活動：[茨城県] いばらきの地魚プロジェクト、茨城県議会傍聴と保健福祉医療委員会との意見交換、㈱マルトとの茨城の野菜を使った商品開発、茨城県警察大学生サポーター[水戸市] 水戸市選挙管理委員会との主催者教育および期日前投票所運営支援、わくわくプロジェクト(水戸市の観光土産品の魅力向上)、ふるさと納税企画プロジェクト[笠間市] 古民家再生プロジェクト[那珂市] 八重桜まつり(キャンドルイベント)[城里町] 城里町役場・水戸桜ノ牧高等学校常北校との高大連携

② 「いばらき地域づくり大学・高専コンソーシアム」を通じた参加校との連携

いばらき地域づくり大学・高専コンソーシアム企画会議、いばらき地域づくり大学・高専コンソーシアム総会を開催した。

③ 社会安全政策研究所等による地域課題の解決に向けた教育研究の推進

第5回社会安全政策研究所シンポジウム「今、ウクライナの危機を考える」、社会安全政策研究所公開セミナー「戦争の現実ーウクライナ危機を事例としてー」を開催した。

(2) 海外研修・交換留学プログラムの充実

① 海外研修プログラム

タイ、フィリピン、韓国を研修先とするプログラムを春休みに実施。また、看護学部が開講する「海外看護研修」は、カナダを研修先として計画していたが、中止となった。

② 交換留学制度

当制度による派遣留学生として、韓国2人、ポーランド2人、カナダ2人、タイ1人を派遣。協定校からは、春セメスター1人（韓国）、秋セメスター5人（韓国2人、タイ2人、ベトナム1人）の受け入れを行った。

③ 協定校からの短期研修受入

3月に、協定校であるインド・マドラス大学犯罪学科の日本短期研修の受け入れを行った。

④ 官民協働海外留学支援制度～トビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラム

第12期（2020年度後期）採用学生1人および第14期（2021年度後期）採用学生2人が、2022年度秋セメスター期間中に留学を実現した。

⑤ 日本学生支援機構「海外留学支援制度（協定派遣）」

日本学生支援機構による「海外留学支援制度（2022年度）」に、本学の交換留学制度に係る2つのプログラムを申請し、協定派遣に係るプログラムのみが継続採択され、交換留学生4人に奨学金が支給された。

⑥ 日本学生支援機構「海外留学支援制度（協定受入）」

日本学生支援機構による「海外留学支援制度（2022年度）」の協定受入に係るプログラムが追加採択され、交換留学生5人に奨学金が支給された。全員が留学期間を延長することとなった（2022年度秋セメスター～2023年度春セメスター）。

⑦ オンラインによる外国語等会話交流

アメリカの協定校の学生との日・英語会話交流および、韓国の協定校の学生との日・韓国語会話交流をオンラインで実施した。カナダの協定校とは、ビデオレター交流を実施した。春セメスターには国際交流会館入寮者に対し、秋セメスターには全学部・学科の学生を対象に、フィリピンの協定校による英語チュータープログラムを実施し、学生の英語力向上を目指した。オランダのライデン大学日本語サークルの学生との日本語交流を実施した。

項目	目標	2022年度実績
地域連携活動数 (大学・短期大学合計)	20件	19件
オープンカレッジ参加者数 (大学・短期大学合計)	120人 (オンライン講座含む)	83人
地域への委員等派遣数	30件	52件
留学派遣者数 (交換留学/短期研修)	58人(11人/47人)	36人(7人/29人)
留学受入者数 (交換留学/短期研修)	15人(15人/0人)	16人(6人/10人)
国際関連イベント参加者数	350人	オンライン会話等交流会 133人(アメリカ39人、韓国24人、カナダ7人、フィリピン28人、オランダ14人、その他国際寮関係21人)、インド短期研修受入関係24人、留学報告会(TOKIWA Chart Room オンライン視聴含む)80人、交流遠足35人、ウェルカムパーティー等171人 合計443人

4 入試広報

(1) 広報活動の充実・多様化

全学広報委員会と連携しながら、学生募集の企画を検討し、さまざまな広報活動を展開した。また、前年度入試結果データと受験生の志望動向の分析結果を基に、学長、副学長および学部長を対象とした入試・広報関係報告会を4回実施し、広報戦略の見直しならびに学生受け入れの際の一助とした。

① コロナ禍における広報活動について

- ・オープンキャンパス：来場型は、感染対策を十分に行ったうえで、事前予約定員制により実施した。コロナ禍により定着しているLIVE配信のオンラインオープンキャンパスを8月に実施した。
- ・高校訪問：感染状況により、訪問を断られる事もあったが、概ね訪問が可能な状況になった。年内入試の志願者が減少したため、12月から1月にかけて、例年、試験系入試で出願する高校への出願促進の訪問を重点的に行った。また、高校教員対象の大学説明会を5月下旬に来校型で実施し、入試の現況など直接説明を行う機会を設けた。
- ・ホームページの充実：2020年度より継続して受験生応援サイト内にWEBオープンキャンパスページを開設し、受験生への広報を展開した。キャンパス紹介を目的とした360°VRキャンパスや学科紹介等を通年で掲載した。また、WEB広告とあわせることで、ページへの積極的な誘導を図った。
- ・PR動画コンテスト：2022年度の新規企画として、学生によるPR動画コンテストを実施し、高校生への訴求力の高い動画による広報を推進した。

(2) 常磐大学高等学校および智学館中等教育学校との連携強化

本学への理解を深め、志願者増を目途として、前年度に引き続き、模擬授業、模擬面接、大学説明等を計画。以下の取り組みを実施した。

- ・大学特別講座（高校/2年生文系希望者200人程度を対象に実施）
- ・模擬面接、面接マナー講座（高校・智学館）
- ・大学説明会（高校/保護者会時およびPTA主催大学見学）

また、法人内の学校間連携を強化するための協議会において、入試広報に関する事項についての情報交換を定期的に行った。

(3) 入試制度の一部変更

大学入試委員会において、各入試制度実施後に改善点等を確認し、次年度入試実施に向け検討した。

また、当該年度の入試実施については、新型コロナウイルス感染症への罹患等により、受験することができない場合の志願者の受験機会の確保のために、予め追試験の設定を行った。

なお、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、総合型選抜Ⅰ期の事前相談については、茨城県外在住の志願者に対して、Zoomを使い遠隔で行った。面接試験等においては、すべての入試において来場形式で実施をすることができた。

2024年度入試に向けた検討を行い、次のとおり変更を行うこととした。

- ・総合型選抜Ⅰ期・Ⅱ期・Ⅲ期のコミュニケーション学科の評価項目を変更
- ・一般選抜Ⅰ期の学力試験問題の「英語」および「国語」を、常磐短期大学一般選抜と共通化し、同日に実施
- ・一般選抜Ⅱ期の試験科目および出願方法の変更
- ・一般選抜および大学入学共通テスト利用選抜の出願書類の追加

項目	目標	2022年度実績
志願者数	2,000人（2023年度入試）	1,681人
入学定員充足率	100%	100.6%
オープンキャンパス参加者数（大学・短期大学合計）	3,000人	3,010人
HPアクセス件数（大学・短期大学合計）	1,000,000件	1,007,006件
学校説明会接触者数（大学・短期大学合計）	2,500件	4,763件
資料請求者数（大学・短期大学合計）	20,000件	23,174件
特別講座実施回数（大学・短期大学合計）	70件	46件

5 施設設備

(1) 教育環境の整備

- ① 看護学研究科の開設に係る図書等の整備
視聴覚資料 1, 図書 100 冊を購入した。
- ② 講義室・演習室への無線 LAN 環境の追加整備
2019 年度に導入した無線 LAN システムを元に, 管理を一元化するため同システムへのアクセスポイントを増設した。2020 年度に大教室 (70 人以上) を対象に増設を実施。2022 年度は, 未整備だった中教室および演習室を対象として, 見和キャンパスには 37 台, 桜の郷キャンパスには 6 台のアクセスポイントを設置し, 接続エリアの拡充を行った。
- ③ WEB 出欠管理システムの導入
出欠情報登録に係る授業科目担当教員の負担の軽減を図るとともに, 学生の出欠情報の管理を効率的に行うため, 学生のスマートフォン等を介して授業への出欠状況を把握することが可能なシステムを導入した。(事務基幹システム(キャンパスプラン)との基本データ連携を含む。)
- ④ 双方向講義システムの導入
見和キャンパスにおいて 2 教室間のサテライト授業(同時双方向型)を実施することが可能な環境を整備するため, 6 教室(G104⇄G205, M109⇄M203, R103⇄R104)に双方向講義システムを導入した。
- ⑤ 桜の郷キャンパス 4 階改修工事
桜の郷キャンパスにおいて 1 学年全員(約 90 人)を収容することができる大講義室を整備するため, 4 階教室の改修工事を行った。

(2) 安全安心な環境の維持

- ① キャンパスの環境整備(0 棟エレベーター更新, 空調設備更新(E 棟, H 棟, O 棟 2 階・3 階, V 棟研究室, T 棟 1 階・2 階), 外壁修繕工事(Q 棟東側タイル面, M 棟), トイレ改修(G 棟 3 階, O 棟 1 階, Q 棟 5 階), 第 1 駐車場出口ゲート更新工事)
学生および教職員にとって, より良い教育・研究環境を実現するためにキャンパスの各環境整備を実施した。
ア 0 棟エレベーター更新工事: 設置後 30 年が経過した 0 棟エレベーターの更新工事を実施した。
イ 空調設備更新工事: 経年劣化した空調機のうち, E 棟, H 棟, O 棟 2 階・3 階, V 棟研究室, T 棟 1 階・2 階の更新工事を実施した。
ウ 外壁修繕工事: 建物の維持保全のため, Q 棟東側タイル面, M 棟の外壁修繕工事を実施した。
エ トイレ改修工事: G 棟 3 階, O 棟 1 階, Q 棟 5 階トイレの温水洗浄便座化改修工事を実施した。
オ 第 1 駐車場出口ゲート更新工事: 設置後 20 年が経過した第 1 駐車場出口ゲートの更新工事を実施した。
- ② 小吹グラウンドの環境整備(部室塗装修繕工事)
建物の維持保全のため, 小吹グラウンドの部室塗装修繕工事を実施した。

(3) 省エネルギーおよび環境保護の取り組み

- ① ボトルフィルター付冷水機の設置
省エネルギーおよび環境保全の取り組みとして, マイボトル専用のボトルフィルター付冷水機を G 棟 1 階, L 棟学生食堂にそれぞれ設置した。
- ② ペットボトルリサイクル専用 Box の設置
省エネルギーおよび環境保全の取り組みとして, ペットボトルリサイクル専用 Box を L 棟学生食堂入口に設置した。

項目	目標	2022 年度実績
整備計画実行率	100%	100%

常磐短期大学

<アドミッション・ポリシー>

本学の教育理念, 教育の目的等を理解し, 社会や地域に貢献する意欲のある次の人を, 多様な入試制度により求めます。

1. 高等学校等の教育で身につけてきた学力を基礎にして, 社会の発展のために学理に基づいた高度な知識の獲得と技能の習得を目標とする人。(知識・技能)

2. 人間として自ら真摯に生きる目的を考え、その実現に向けての取り組みを、的確に他者へ伝えられる人。
(思考力・判断力・表現力)
3. 職業を通じた自立的な生き方や幼児教育・保育に関する様々な問題に関して人間性豊かに、創造的に取り組む意欲をもつ人。(主体性・多様性・協働性)

＜カリキュラム・ポリシー＞

本学の建学の精神及び学則に示された教育理念・教育の目的等に基づき、学科授業科目による教育課程を編成し、実施します。

1. 短期大学士として求められるキャリア教養学科と幼児教育保育学科共通の教養科目を含む学科授業科目。
2. 学理に基づく高度な知識と実践的スキルとを習得できる学習プロセス。
3. 豊かな人間性を涵養し環境に順応できる人材を育成するための適切な教育方法。

＜ディプロマ・ポリシー＞

本学の建学の精神および学則に示された教育理念・教育の目的等に基づき、短期大学士としての広く深い教養と専門知識を基礎として、さらに専門性と創造性を高め、人格を磨いていくことができる学生を社会に送り出します。

1. 共通の教養科目を含むキャリア教養学科と幼児教育保育学科、それぞれの授業科目からなる学修を通じて、卒業後も自らの資質を向上させながら、社会的及び職業的自立を図るための基礎的能力を身につけた学生。(知識・技能、汎用的能力、態度・志向性)
2. 質の高い実践力と責任意識をそなえ、豊かな人間性をもった、創造的で常に成長する学生。(汎用的能力、態度・志向性)
3. グローバル化の中で展開する知識基盤社会において、その問題を捉え、問題の解決に真摯に取り組むことができる情報能力と国際的感覚をそなえた学生。(汎用的能力、態度・志向性)

1 教育研究

(1) 国際化・グローバル化への対応のための教育の充実

- ① 国際交流語学学習センターにおける語学学習支援の充実
ア Talk Time [大学に記載]
イ Tokiwa English Award [大学に記載]

(2) 数理・データサイエンス教育の充実

数理・データサイエンスに関する知識および技術について、それらを適切に理解し、活用する基礎的な能力を育成するため、情報処理に関する一部の授業科目について教育内容の見直しを行った。

(3) 教学マネジメントの確立

① 内部質保証システムの恒常化および実質化

短期大学全体および各学科において点検・評価活動に取り組んだ。具体的には、建学の精神と教育の効果、教育課程と学生支援、教育資源と財的資源、リーダーシップとガバナンス等の項目別に当年度の実現計画を策定し、適時対応状況を確認するとともに、改善策を検討した。

② 適切な教育プログラムの編成・実施

上記①における点検・評価活動の結果等を踏まえ、より適切に教育プログラムを実施するため、アセスメント・ポリシーに基づき、セメスター毎に単位修得状況（GPA も含む成績の分布状況）等の把握・分析を行うとともに、成績評価指標の精度向上のため、FD 研修会等も活用しながら、課題の抽出等に取り組んだ。

③ 教職員の資質向上

一般財団法人全国大学実務教育協会「能動的学修の教員研修リーダー講座」に本学教員（1人）を派遣した。また、学内教職員の発表等を通じて、授業の内容および方法の改善にかかわる情報の共有、認識の確立等を図るため、「FD 研究会」を開催した。このほか、学外者（外部講師）による講演等を通じて、昨今の高等教育の動向等に関わる情報の共有、認識の確立等を図るため、常磐大学との共催により「SD 研修会」（短期大学設置基準第 22 条の 2 第 1 項関係）を開催した。

(4) 教育研究活動の活性化に向けた外部資金獲得

科学研究費助成事業については、制度等説明会の開催、個別相談等を通じて、申請の支援および奨励等に取り組んだ。学内研究助成では、研究代表者として科学研究費助成事業へ申請し不採択となった研究で、次年度に同様の申請を行う研究を支援するための研究種目（特別奨励研究助成）を設けている。

項目	目標	2022 年度実績
語学学習支援企画への参加者数	7 人	Talk Time 韓国語 21 人
語学試験合格者数	6 人	Tokiwa English Award 0 人
外部資金獲得額（大学・短期大学合計）	大学に記載	大学に記載
科研費獲得件数	4 件	1 件
FD 活動参加率	95%以上	86.4%

2 学生支援

(1) 学生満足度調査の実施

前回と同様に WEB による調査（対象学生のメールアドレスに回答 URL を記載したメールを配信）を実施した。調査対象者数 341 人のうち、276 人から得られた回答を集計し、総合満足度は 95%の結果であった。

(2) 学修支援体制の充実

① 「高等教育の修学支援新制度」の円滑な運用

学内の各種奨学金と日本学生支援機構奨学金を学生に案内するとともに、文部科学省による「高等教育の修学支援新制度」の対象機関として認定を受け、53 人（内、新規採用者 27 人）の学生が採用された。なお、「学びの継続のための『学生支援緊急給付金』」は 2021 年度をもって募集終了のため、2022 年度に採用実績はない。

(3) 課外活動の支援

学長があらかじめ定めた感染症対策が講じられていると学生支援センター長が認めた場合に限り、活動しようとする 2 週間前までに（継続的に活動する場合は前月 15 日までに）学生支援センターへ活動計画書を提出することで活動を認めた。課外活動参加者は 57 人で、学生全体に占める割合は 16.8%となり、前年度から 12.8 ポイント増加した。学園祭は 3 年ぶりに 2 日間とも模擬店販売を含めたイベントを対面により実施した。

(4) キャリア支援プログラムの充実

① インターンシップ参加促進（1 年次対象のものを含む）

- ・インターンシップに関する情報を、随時、メール配信および掲示により周知し参加を促した。併せて、就職支援プログラムとして「インターンシップ対策講座（対面）」・「インターンシップ ES 対策講座（オンライン）」・「インターンシップマナー講座（対面）」・「秋冬インターンシップ講座（オンライン）」を実施し、インターンシップ参加方法や情報の探し方、選考に対する準備等の解説を行った。

② 短大生向け就職支援プログラムの充実（e ラーニング教材「竹びと SPI」の積極的な活用、「竹びと SPI 模試」の利用促進を含む）

- ・「竹びと SPI」（オンライン）による模擬試験を実施した。短大 1 年生（幼児教育保育学科は希望者のみ）を対象とし、春セメスターは「竹びと SPI」の「テストセンター・固定 2」、秋セメスターは「テストセンター・固定 1」を実施した。春セメスターの実施は今年度が初めてであった。また、春・秋ともに試験終了後、受験した模擬テストの問題の中から何問かをピックアップして解説する「模擬テスト解説会」を実施した。（株式会社ライズ担当）

短大キャリア教養学科では、「キャリア形成演習Ⅰ・Ⅱ」で模擬試験について学生に周知した。

模擬テスト実施期間：春セメスター 6 月 20 日～7 月 8 日・秋セメスター 11 月 8 日～11 月 21 日

キャリア教養学科 1 年生は、春セメスターに実施した「キャリア形成演習Ⅰ」の夏休みの宿題として「竹びと SPI」に取り組みせ、「キャリア形成演習Ⅱ」で取り組み状況を確認した。

項目	目標	2022 年度実績
学生満足度（学生支援・キャリア支援）	80%以上	95.5%
退学率	2.5%以下	2.6%
就職率	98%以上	98.6%

公務員合格者数（教員含む）	6人	2人
情報メディアセンター（図書館）の利用者数 （平日夜間・土曜日）（大学・短期大学合計）	大学に記載	大学に記載
貸出冊数（大学・短期大学（教員・学生）合計）	大学に記載	大学に記載

3 地域連携・国際交流

（1）地域における課題の解決のための取り組み〔大学に記載〕

- ① 地域の自治体，産業界との連携
- ② 「いばらき地域づくり大学・高専コンソーシアム」を通じた参加校との連携
- ③ 社会安全政策研究所等による地域課題の解決に向けた教育研究の推進

（2）海外研修・交換留学プログラムの充実

① 国際文化研修

学部の開講する海外研修に参加することによって，学生の国際文化研修の単位取得を促した。

② オンラインによる外国語等会話交流〔大学に記載〕

項目	目標	2022年度実績
地域連携活動数（大学・短期大学合計）	大学に記載	大学に記載
オープンカレッジ参加者数 （大学・短期大学合計）	大学に記載	大学に記載
地域への委員等派遣数	3件	3件
留学派遣者数（短期研修）	7人	5人（韓国）
国際関連イベント参加者数	24人	オンライン会話等交流会 10人（韓国3人，フィリピン3人，その他国際寮関係4人），インド短期研修受入関係4人，交流遠足3人，ウェルカムパーティー等 12人 合計 29人

4 入試広報

（1）広報活動の充実・多様化

全学広報委員会と連携しながら，学生募集の企画を検討し，さまざまな広報活動を展開した。また，前年度入試結果データと受験生の志望動向の分析結果を基に，学長，副学長および学部長を対象とした入試・広報関係報告会を4回実施し，広報戦略の見直しならびに学生受け入れの際の一助とした。

① コロナ禍における広報活動について

- ・オープンキャンパス：来場型は，感染対策を十分に行ったうえで，事前予約定員制により実施した。コロナ禍により定着しているLIVE配信のオンラインオープンキャンパスを8月に実施した。
- ・高校訪問：感染状況により，訪問を断られる事もあったが，概ね訪問可能な状況となった。志願者が減少していることから，12月から1月にかけて，例年出願が多い高校への聞き取り調査の訪問を行った。また，高校教員対象の大学説明会を5月下旬に来校型で実施し，入試の現況など直接説明を行う機会を設けた。
- ・ホームページの充実：2020年度より継続して受験生応援サイト内にWEBオープンキャンパスページを開設し，受験生への広報を展開した。キャンパス紹介を目的とした360°VRキャンパスや学科紹介等を通年で掲載した。また，WEB広告とあわせることで，ページへの積極的な誘導を図った。
- ・PR動画コンテスト：2022年度の新規企画として，学生によるPR動画コンテストを実施し，高校生への訴求力の高い動画による広報を推進した。

（2）常磐大学高等学校および智学館中等教育学校との連携強化

本学への理解を深め，志願者増を目途として，前年度に引き続き，模擬授業，模擬面接，大学説明等を計画。以下の取り組みを実施した。

- ・大学特別講座（高校/2年生文系希望者200人程度を対象に実施）
- ・模擬面接，面接マナー講座（高校・智学館）
- ・大学説明会（高校/保護者会時およびPTA主催大学見学）

また、法人内の学校間連携を強化するための協議会において、入試広報に関する事項についての情報交換を定期的に行った。

(3) 入試制度の一部変更

入試委員会において、各入試制度実施後に改善点等を確認し、次年度入試実施に向け検討した。また、当該年度の入試実施については、新型コロナウイルス感染症への罹患等により受験することができない場合の志願者の受験機会の確保のために、予め追試験の設定を行った。

なお、すべての入試において来場形式で実施をすることができた。

2024年度入試に向けた検討を行い、次のとおり変更を行うこととした。

- ・学校推薦型選抜の出願書類の追加
- ・一般選抜の学力試験問題の「英語」および「国語」を、常磐大学一般選抜Ⅰ期と共通化し、同日に実施
- ・大学入学共通テスト利用選抜の独自試験（個人面接）を廃止、出願書類を追加
- ・一般選抜および大学入学共通テスト利用選抜の「音楽の進捗状況確認」を廃止

項目	目標	2022年度実績
志願者数	130人（2023年度入試）	109人
入学定員充足率	100%	84.2%
オープンキャンパス参加者数（大学・短期大学合計）	大学に記載	大学に記載
HPアクセス数（大学・短期大学合計）	大学に記載	大学に記載
学校説明会接触者数（大学・短期大学合計）	大学に記載	大学に記載
資料請求者数（大学・短期大学合計）	大学に記載	大学に記載
特別講座実施回数（大学・短期大学合計）	大学に記載	大学に記載

5 施設設備 [大学に記載]

(1) 教育環境の整備

(2) 安全安心な環境の維持

(3) 省エネルギーおよび環境保護の取り組み

項目	目標	2022年度実績
整備計画実行率	100%	100%

常磐大学高等学校

1 教育・学習支援

(1) 確かな学力の育成

① 主体的に学習できる能力を高める

生徒が課題を認識して、手立てを考える支援を目的としたコース面談を両コースで実施し、複数の教員で生徒を支える体制を整えた。到達度テストとスタディサプリアを活用して、個別最適な学びの実現に取り組んだ。

② 学びを人生や社会に生かせる能力を高める

高校の学びと実社会とのつながりを認識する機会として、オンライン企業訪問や社会人講話を実施した。特進選抜コース1年次の水戸市、特進コース2年次の笠間市と連携した探究プログラムを実施して、授業で習得した知識を社会課題の解決に活用する機会を設けた。

③ ICTツールを積極的に活用し情報を収集できる能力を高める

タブレット端末の普及によって、生徒が情報を収集することは容易となったが、目的に応じて適切に活用する能力の育成は課題が残った。メディア教育講演会や授業の中で情報の特性や著作権など、情報を扱う上で不可欠な事項について理解を深める手立てが必要である。

④ 国際社会を生きる実践的英語力を高める

ハリリー・エインリー高校3カ月語学留学が再開し、5人の生徒が参加した。帰国後はSDGsをテーマとするプレゼンテーションを実施した。2020年11月から始まった「TOMODACHIKAI」も実践的英語力を育成し、海外経験への動機付けにもつながっている。

国際教育交流ネットワーク機構の支援により、1年間アメリカに1人、カナダに1人を派遣した。GTECについても、両コースともに成績の伸び率が全国平均の2倍以上と顕著な結果を示した。特にリスニング力の伸びが大きく、DMM英会話の成果と考えられる。

(2) 「探究」を軸とした教育活動の推進

① 自ら課題を発見し、解決する能力を高める

特進選抜コース2年次の個人課題研究は課題発見力や表現力の育成に加え、異学年同士の学びを促す機会にもなっている。特進コース2年次では地方行政団体と協働した探究プログラムを開始し、課題発見力・創造力、表現力に加え、地域社会に対する関心を高めた。一方で、教科教育において探究のサイクルを意識した授業展開は教員間の差が大きい。

② 多様な他者と協働で試行錯誤し解決する能力を高める

総合的な探究の時間にとどまらず、多くの授業でペアワーク・グループワークが行われたこと、学校行事においても資質・能力の育成が意識されたことは、協働力の育成につながった。

(3) 3年間を見通した系統的な進路支援

① 進路指導計画（ロードマップ）により生徒一人一人の自立に向けて必要な能力や態度を育成する

学年会議等を通して「現時点で生徒はどのステージにいるか」を定期的に確認し、進路行事や学習指導の実施計画や振り返りを行った。また、学級担任による生徒個別面談のみならず、各コースによる進路・学習面談を進路部付の教諭が行うなど、ロードマップ以外の取り組みも臨機応変に進めた。2023年度に向けてロードマップ改訂を全学年・全コースで進めた。

② 自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく能力を育成する

1年次「オンライン企業訪問」（6月）や「職業講話」（10月）を通して、実社会で奉職することの意義を学ぶ企画を進めた。2年次の「キャリアガイダンス」（6月）では若手起業家による出張講座を通して、自己の適性と将来の姿、未来の社会に向けて何ができるかを主体的に考える取り組みを進めた。

③ 常磐大学・常磐短期大学との更なる連携の推進

特進文系コースの2年生を対象とした大学特別講座については、大学教員との事前打ち合わせを密に行い、講義内容や育成目標の相互理解を促した。生徒対象のアンケートでは、全ての生徒が高校の授業では得られない知識を獲得できたと回答した（はい65% どちらかと言えばはい35%）。

看護系進学を目指す生徒対象の「常磐大学看護学部体験授業」を初めて行った（8月および2月）。コロナ禍において病院実習等の機会が不足していた生徒にとって自らのキャリアビジョンを具現化し、地域医療について学ぶ機会となった。また、学校教育・保育系を志願する生徒対象の「常磐大学幼稚園インターンシップ」を再開し、教育現場に求められる素養を体験的に学ぶ取り組みを進めた。

(4) 読書活動の充実

① 図書館を積極的に利用し、文章読解力を培うために読書を奨励する

新型コロナウイルス感染症の状況を鑑みて、図書館利用ルールを緩和し、利用の促進を目指した。1年生では、図書館から書籍を1冊借りて、読書ノートを作成して紹介する活動に取り組んだ。個人課題研究では先行研究調査で図書館の書籍を積極的に利用するよう呼びかけた。

項目	目標	2022年度実績
生徒授業アンケートでの肯定評価	90%以上	89.8% (1学期) 90.9% (2学期)
常磐大学・短期大学進学者	30%以上	25.9%
大学入学共通テスト受験率	80%以上	85%
大学（短大含む）進学率	80%以上	73.8%
海外研修参加者数 *実施可能な場合	10人以上	7人

2 生徒支援

(1) 総合的な「人間力（自己肯定感）」の育成

- ① 自律した行動の基礎となる生活習慣を確立する
朝の一斉服装指導を定期的実施して、生徒自らが行動を律する機会を設定した。生徒会役員と生徒部教員との「校則サミット」を開催し、生徒の意見を集約した。服装規定の見直しなど要望の多いものは適時検討した。
- ② 学習と部活動、行事を両立できる生徒を育成する
定期考査前には学習優先期間を設定して、学校全体として学習に集中できる環境を整えた。長期休業中ゼミについては、午前中にゼミを計画して部活動との両立を図った。始業前に実施されるゼミについては参加者も減少しており、課題の検証が必要である。
- ③ 他者信頼・他者貢献・自己受容ができる生徒を育成する
本校が育成を目指す資質・能力「ときわ力」が明文化されたことを受けて、学校行事前後の指導が充実し、上記に掲げた資質・能力の育成につながった。
- ④ 心身の健康に努め、粘り強く努力する生徒を育成する
新型コロナウイルス感染症への対策として毎朝の検温を徹底して健康管理への意識を高めた。
- ⑤ 高等学校 100 周年記念事業における愛校心の涵養
6 月には学校創立 100 周年記念イベントを、「アダストリアみとアリーナ」にて開催し、式典を始め、卒業生トークライブ、音楽ライブなどの催しに全校生徒で出席した。本校の歴史を振り返る機会となった。

項目	目標	2022 年度実績
各部活動のボランティア活動	生徒一人年 1 回以上	4 件 (吹奏楽 3 件, ダンス 1 件)
部活動加入率	75%以上	75.4%
上位大会(関東・全国)出場件数	10 件以上	26 件 (関東 23 件・全国 3 件)

3 入試広報

(1) 学校公開を工夫し受験生の確保に努める

- ① HP・スクールガイドをメインにサブツール広報誌や SNS 発信などを工夫する
2022 年度より、秋のパンフレットとして「Tokiwa Style」を制作し、県内広く中学 3 年生に配付した。中学校の先生からは受験生の常磐に対する印象が強くなったという言葉が多数いただいていた。Instagram の更新頻度を増やしたところ、フォロワー数が 160 人から 470 人に増えた。発行物では発信できない動画や生徒目線での画像によって、本校の魅力をダイレクトに発信できた。
- ② 入学試験作問を精査し、本校が求める入学者選抜のより適正な実施を推進する
県内の中学校で採用している教科書リストを確認し、教科書と照合しながら内容に偏りのない出題を心掛けた。また、新型コロナウイルス感染症の状況に配慮し、出題範囲の設定には十分に余裕をもたせた。
- ③ WEB 出願等により受験生の利便性向上を図る
WEB 出願を導入して 3 年が過ぎ、操作方法への問い合わせが大幅に減少した。また、受験生のメールアドレスの登録により、試験の連絡や合格後の特別授業についての連絡も素早く正確に行えるようになった。

項目	目標	2022 年度実績
オープンスクール参加者数	対前年比 105%	対前年比 99%
受験者数	対前年比 100%	対前年比 96%
HP (TOP ページ) の更新	月平均 40 回以上	月平均 16.33
HP アクセス件数	月間平均 35,000 件以上	月間平均 24,777 件

4 施設設備

(1) 環境充実のための施設整備, 配備

- ① 1 号館屋上および西側外壁修繕工事
1 号館においては経年劣化により雨漏りも発生し、一般の通りに面した外壁も古く外観が悪くなっていることから、屋上工事および外壁の修繕・塗装工事を行った。

② 本館空調更新工事 3年計画 第2期

2000年本館竣工以来の経年劣化による空調設備の機器更新について、2021～2023年度の3カ年で入れ替える計画を策定し、第2期として教員室、アリーナなどの校舎西側部を中心に整備を行った。

③ 本館3階体育館(アリーナ)照明LED化工事

本館アリーナの照明切れが複数箇所生じていること、および電気代の高騰対策としてLED照明への更新工事を行った。

④ 体育館外部北階段塗装工事

体育館外部北階段について、経年による歩行部分・手すり部分の塗装の劣化、それに伴う腐食防止のため、塗装工事を行った。

⑤ 本館教員室床修繕工事

本館1階教員室の床材(フリーアクセス構造)では、竣工後20年を経て床が轍状に湾曲している箇所が多くなり、歩行部分では躓く生徒や教員がいたほか、椅子を利用する際にキャスターが湾曲部分に干渉し更なる劣化を招いている状況であった。このため、劣化した箇所において修繕工事を行い平らな床と改善された。

⑥ 硬式野球場内野改修工事

硬式野球場の内野部分の劣化により整地工事を行った。クッション性が担保されイレギュラーのバウンドが少なくなり、怪我の発生を抑えることのほか、攪拌整備したことで、日常のメンテナンスが容易になり、コンディションを維持することが容易になることが期待される。

⑦ 構内プレハブ施設整備

硬式野球場に設置されているプレハブ棟について耐風対策を行うことを目的に整備を計画したが、未実施とし、計画の見直しを行った。

⑧ 硬式野球場防球ネットかさ上げ改修工事

硬式野球場において、打球が南側および南西側防球ネットを越えて隣接する農地や公道上へ落下する状況があり、隣接地に新たに住居が建築されることを受け、農地の作業や歩行者の安全確保および通行する車両のほか近隣住宅の破損防止等を目的として、防球ネットのかさ上げ工事を行った。

⑨ 校務システム導入計画

校務システムにおいて、新学習指導要領に基づく調査書等の帳票レイアウトに対応し、「学籍」「成績」「出欠」「進路」等のデータ連携が十分なシステムに移行するため、新たなシステムの導入を行った。

項目	目標	2022年度実績
整備(工事)計画実行率	100%	89%

智学館中等教育学校

1 教育・学習支援

- (1) 2022年度からの新学習指導要領実施に伴い、2025年度大学入学共通テストに向けた教育活動の実践
今年度4年次は「新学習指導要領」に沿った授業展開となった。特に、理科の選択は、より生徒の実情に合ったものとなり、5年次では「情報I」の授業、6年次では理系の生徒はもちろん国立大学を目指す文系の生徒にも「数学C」が選択できるようにした。これにより、生徒一人一人の進路実現に向けたより良い選択が可能となる。

「大学入学共通テスト」では、特に、思考力・表現力・判断力が問われており、また長文の読解力が必須とされていることが見て取れる。そこで、旧課程の生徒にも、単に教員からの知識の伝達にとどまらず、生徒たちにより積極的に発言させ、議論させることを意識した授業を展開した。

- (2) 個々の学力推移の分析を踏まえ、習熟度別授業の更なる工夫と個別指導による生徒一人一人の学力向上および希望進路の実現

国語・数学・英語の授業は、習熟度別のクラスに2～3分割し、個々の生徒に対して最適なレベルで授業を展開している。習熟度別編成は、学期毎に、定期考査や校外模擬試験データを用いて行った。また、校外模擬試験のデータは、統合・視覚化することで、全教員で共有し、生徒一人一人の学力推移を意識した指導を実施した。さらに、これからの生徒達に必要な問題解決能力・論理的思考力を計ることがで

きる「AiGrow」を昨年度より導入し活用している。6年一貫教育の強みを生かし、将来について考える時間を前期課程生から意識させている。

(3) 現状を踏まえた6年間の研修旅行の実践

新型コロナウイルス感染症の影響により実施できなかった研修旅行を今年度は3年ぶりに全て実施した。前期課程生は、1年次で「新入生合宿」、2年次で「社会科学研修」、3年次で「国内研修旅行」を実施した。また、3月には、前期課程生による「つくばサイエンスツアー」を行い、未来の生活に目を向けさせるとともに、茨城の魅力を学ぶことができた。後期課程生は、5年次生が10月に、10泊12日のイギリスでの「海外研修旅行」を実施した。感染対策を十分に行い、参加者全員が満足いく研修となった。特に、出発前と帰国後では生徒たちの考え方や意識が大きく変化し、この研修が、本校の基本理念である「世界的視野で考え行動できる」人材の育成に大いに貢献したと思われる。

(4) ICT機器を取り入れた効果的な授業の研修と実践および遠隔授業への更なる対応と研究

生徒全員がChromebookを所持することで双方向授業の実践はもとより、休校期間や急遽自宅待機を余儀なくされた場合でもGoogle Meetによりいつでも双方向遠隔授業が実施できた。今後もさらに積極的かつ自在にICT機器を使って効果的な学習活動ができるよう研修を積んでいく。

(5) ユネスコスクールを通じた海外校との交流継続

昨年度に引き続き韓国のソンドック中学校(Sungduk Middle School)との交流を実施した。1月に、3年次生が自己紹介や相手方への質問などをスライドにまとめ送付した。相手校の都合により年度内にZoom等を用いたリアルタイムの交流会は実施できなかった。

(6) SDGsの理念を取り入れた探究活動の継続

SDGsの理念に立脚する探究学習では、問題発見・解決能力をはじめとして、論理的思考力・創造的思考力、情報収集・整理・分析技法などの非認知的能力向上に取り組んできた。ここ数年の活動を整理し、発達段階に応じた「智学館スタイル」が確立した。1年次では、前半は「自由研究」、後半は「ラベル・マークからみる世界」に取り組み、一連の探究スパイラルを身に付けさせた。2・3年次では、水戸ユネスコ協会の指導を仰ぎ、梅染め商品開発に取り組んできた。特に年度前半ではグループごとに「茨城県学生ビジネスプランコンテスト」に応募した。また、3月には茨城新聞社「みと・まち・情報館」にて商品の試作品を展示した。4・5年次では、各自の関心のある分野に関連する外部コンテスト・コンクールへの参加を通じ、自らの希望する未来像をより具体的に思い描く道筋となった。また、数人の生徒が入賞を果たすなど、進路実現への可能性を高めることができた。さらに、年度末には2年ぶりに生徒全員が探究の成果を発表するPBL Day(探究学習発表会)を実施した。

項目	目標	2022年度実績
各個人の校外模擬試験における偏差値の上昇数	2ポイントアップ以上	1.1ポイントアップ
総授業時間におけるICT活用率	50%以上	53%

2 生徒支援

(1) 生徒会等自主的活動の活発化への支援

特別活動部を中心として自主的活動への支援を行った。生徒会主催の行事である「智学館カップ」や「卒業生を送る会」等は感染対策を十分に行いながら実施した。特に今年度は生徒会が主体となって「カップ前夜祭」を開催した。また、ベルマーク活動や茨城フードバンクへの寄付、さらに生徒会誌「けやきの記」の発行を行った。これらの企画運営によって生徒たちの自治活動はもちろん、社会性なども身に付けさせることができた。なお、生徒たちにより、Instagramでの情報発信を週1回のペースで行っている。

(2) 各種ボランティア活動参加への支援

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、ボランティア活動は大幅に減少した。その中で、次の3つの活動に生徒が参加した。7月の水戸ホーリーホックコラボデーには生徒会役員を中心とした生徒が、12月には6年次生が「茨城県議会議員一般選挙期日前投票ボランティア」に、また4年次生が「市内の中学生対象『数学学習相談会』」にそれぞれ参加をした。なお12月開催予定であった「水戸市中学生交流会」は中止となった。今年度も多くのボランティア活動が中止となった中、参加申し込みをした生徒の様子を見ると、奉仕の精神があり社会貢献を望んでいるようであった。

(3) 教育振興会との連携強化および活動の活発化

保護者総会・教育振興会総会については、新型コロナウイルス感染防止に努めながら実施した。そして、智学館カップ・授業参観・合唱コンクール・PBL Day等の学校行事にも保護者の参加・見学を可能とした。保護者も学校での生徒の活動の様子を見ることを望んでいたようである。なお、智学館カップについては、予行・前夜祭・当日の活動の様子など3日間の動画を配信した。

(4) 発達段階に応じた各種講演会の実施

発達段階に応じて講演会を実施した。まず、保健安全部による指導として、1・2年次生対象の「カウンセリング教室」、3年次生対象の「思春期講座」、4・5年次生対象のがん体験者による「いのちの学習会」、6年次生対象「薬物乱用防止教室」を行った。

生徒指導関連としては、全生徒を対象としたLINE みらい財団による「情報モラル教育オンライン授業」と日本自動車連盟茨城による「交通安全教室」を、また、6年次生を対象に「くらしのセミナー」、5年次生を対象に「人権教育研修」を行った。

進路関係については、1年次生対象の「学習ガイダンス」、2・3年次生対象の日本農業実践学園での職業体験、3年次生対象の後期課程進級に向けた進路講演会、4年次生対象のハローワークによる「職業意識ガイダンス」とJICAによる「早期キャリア講座」、4・5年次生対象のキャリア講座を行った。また、後期課程生を対象に進路講演会や進路ガイダンスを行った。さらには、常磐短期大学の教員による「面接・マナー講座」を実施した。

これらの講演会を通して、保健安全・生徒指導・進路について、発達段階に応じた適切な指導を行うことができた。

項目	目標	2022年度実績
県大会上位進出および関東大会出場	4件/2件	2件/2件(合唱・新体操)
ボランティア参加者率	50%以上	3件
薬物、交通、消費者、メディア等講演会	5回以上	7回

3 広報

(1) HPやSNSを通じた、教育活動内容の発信

SNSでの情報発信を積極的に行った。内容については、学校での生徒たちの活動や日々の行事・日常の様子・部活動の結果など、楽しく活発に学校生活を送る様子を感じられるよう努めた。発信回数については「3日に1度」を目標に、FB・Instagramを同時に発信した。

(2) 天体観測会の継続的な実施

学校の役割の一つである社会貢献活動として「天体観測会」を開催した。今年度は小学生だけでなく、幼稚園児や近隣の中学生も参加してくれた。参加者の様子を見ると、保護者も含めて大変満足をしてくれたようである。観測会では「ミニ講座」も実施し、理科教員のみならず、国語科・数学科の教員も担当するなど、学校をあげての行事となっている。

項目	目標	2022年度実績
HPアクセス件数	対前年比100%	対前年比72%
SNS発信数	100回	109回
天体観測会実施回数	12日/年	4日/年

4 施設設備

(1) 感染症対策を踏まえた学習環境の整備

従来のサーマルカメラや飛沫防止パーテーション等による感染症対策に加えて、全てのホームルーム教室・教務センターおよび事務室へ空気清浄機とサーキュレーターを新たに設置した。また、業者による校舎内全体の消毒作業も行い、これらの感染防止のための取り組みにより、健康的な学習環境の維持を図った。なお、生徒の給食を2部制とし、交代時には全教員でテーブル等の消毒を行った。

(2) 校内ネットワークリプレイスの実施

校舎内全域に敷設しているネットワークシステムについて、機器の老朽化が進み、故障等により運用に支障をきたす可能性があるため、リプレイスを実施した。実状に見合った機器構成とし、高速かつ柔軟性を備え、セキュリティを保ちながら安定的に運用できるシステムを構築した。

(3) 環境充実のための施設整備, 配備

① 屋内集成材柱・梁のひび割れ補修工事の実施

建物の維持保全のため, カフェテリアや教室, 廊下等の屋内集成材柱・梁のひび割れ補修工事を実施した。

項目	目標	2022 年度実績
整備計画実行率	100%	100%

常磐大学幼稚園

1 教育

(1) 個々の思いや可能性の実現を目指し, 自己発揮できる主体的な活動の支援

学年末までに一人一人の目標の達成に向けて, わくわくチャレンジ (音楽・サッカー・運動・造形等) やなわとび大会など, それぞれに活躍できる場がもてるよう保育内容を考え実践した。

(2) 子どもの育ちを中心に据えた日常生活の発展として, 四季の行事の充実を図る

園生活に潤いをあたえる四季ごとの行事として, 3年ぶりのプール遊びや運動会ごっこから従来の運動会を実施し, 日々の遊びや活動がより意欲的なものになるよう職員間で共通理解に努めた。

項目	目標	2022 年度実績
「わくわくチャレンジ」開講回数	63 回	63 回

2 広報

(1) 活動内容を含む情報発信の充実 (HP, ポスターなどの活用)

日常の活動内容を HP, SNS にこまめにアップした。また, 家電量販店, キャリアショップ (携帯ショップ), 飲食店, 美容室等にポスターの掲出および置きチラシを依頼した。その他, 茨城県庁舎のエレベーター内および生協レストラン内に広告を掲出した。

(2) 園庭開放の実施, 育児に役立つ勉強会等, 地域に根差した幼稚園作りの取り組みを促進

園庭開放は夏季休業中に 6 回実施, 育児に役立つ勉強会は 3 回実施した。これらの取り組みについては HP の他, 近隣の小学校や市民センターにもチラシを配布して周知した。

(3) 入園希望見学者の積極的な受け入れと細やかな対応の実践

電話やメール等で問い合わせがあった場合は, 確実に見学につなげ, 園生活の具体的なイメージがつかめるよう DVD にまとめたものも視聴してもらい, 例年より多くの転入園の確保につながった。

(4) 「子育て支援・多世代交流センター」利用者への広報活動の実施

子育て支援・多世代交流センター (わんぱく・みと, はみんぐぱく・みと) に置きチラシを依頼した。

項目	目標	2022 年度実績
入園定員充足率	100%	93.3%

3 施設設備

(1) 教育環境の整備

① 保育室照明の LED 化 (まつの子ぐみ, もも組)

各保育室の照明の LED 化を 2016 年度より実施してきたが, 2022 年度はまつの子ぐみ, もも組の更新工事を実施し, 未更新の教室は, うめ組 (2023 年度実施予定) のみとなった。

② 保育室壁クロス修繕工事 (もも組, うめ組)

経年劣化した各保育室壁クロス修繕工事を 4 年計画で実施してきたが, もも組, うめ組の更新工事をもって全て完了した。

③ 玄関廊下壁クロス修繕工事

経年劣化した玄関廊下壁クロスの更新工事を実施し, 全体の約 30% 終了した。

項目	目標	2022 年度実績
整備計画実行率	100%	100%

(2) 2022 年度主要行事

月	事 項
4月	3日 大学・短期大学・大学院入学式, 7日 高等学校入学式, 8日 中等教育学校入学式, 11日 幼稚園入園式, 20~21日 中等教育学校新入生合宿
5月	14日 中等教育学校保護者総会・教育振興会総会・学級懇談会, 21日 大学・短期大学オープンキャンパス, 高等学校PTA後援会総会, 26日 第1回理事会・第1回評議員会・第2回理事会, 27日 大学説明会
6月	3・4日 高等学校ときわ祭, 12日 大学・短期大学オープンキャンパス, 18日 高等学校創立100周年記念行事
7月	7日 中等教育学校芸術鑑賞会, 10日 大学・短期大学オープンキャンパス, 22~25日 高等学校オープンスクール, 30日 常磐大学×水戸ホーリーホック応援デー
8月	11日 大学・短期大学オープンキャンパス, 17日 高等学校3カ月語学留学出発(～11月18日), 27日 大学・短期大学WEBオープンキャンパス
9月	8日 第1回入園説明会・みんなで遊ぼう, 8・9日 高等学校クラスマッチ, 17日 大学入学試験(総合型選抜Ⅰ期, 課外活動Ⅰ期), 18日 短期大学入学試験(総合型選抜セミナー型), 23日 中等教育学校智学館カップ, 24日 大学・短期大学オープンキャンパス, 29日 第2回評議員会・第3回理事会
10月	1日 幼稚園運動会, 8~19日 中等教育学校5年次海外研修旅行, 9日 大学院人間科学研究科春 semester 入学Ⅰ期入学試験, 大学院看護学研究科入学試験, 11日 幼稚園第2回入園説明会・みんなで遊ぼう, 12日 中等教育学校2年次社会・科学研修旅行, 16日 高等学校第1回秋季学校説明会, 18~20日 中等教育学校3年次国内研修旅行, 22・23日 大学・短期大学ときわ祭, 大学・短期大学個別相談型オープンキャンパス, 22日 高等学校第2回秋季学校説明会, 25日 第3回入園説明会・みんなで遊ぼう, 26日 高等学校芸術鑑賞会, 29日 大学入学試験(総合型選抜Ⅱ期, 編入学Ⅰ期), 高等学校第3回秋季学校説明会, 中等教育学校 Walking Day
11月	1日 幼稚園願書受付・入園考査・内定発表(1号認定児), 12日 大学・短期大学個別相談型オープンキャンパス, 19日 大学入学試験(公募制・指定校), 高等学校1年生学年懇談会, 20日 短期大学入学試験(公募制・指定校), 24日 第3回評議員会・第4回理事会
12月	3日 幼稚園発表会, 10日 大学入学試験(総合型選抜Ⅲ期, 課外活動Ⅱ期, 卒業生推薦, 社会人), 短期大学入学試験(総合型選抜Ⅰ期, 卒業生推薦, 社会人), 12~16日 高等学校修学旅行, 17日 大学・短期大学個別相談型オープンキャンパス, 21日 幼稚園第1回新入園児保護者説明会
1月	9日 高等学校入学試験(推薦), 14・15日 大学入学共通テスト, 16日 高等学校入学試験(一般), 26日 第4回評議員会・第5回理事会
2月	1日 高等学校水戸探究発表会, 3日 大学入学試験(一般入試Ⅰ期, 外国人留学生, 帰国子女), 7日 短期大学入学試験(一般), 11日 大学院人間科学研究科春 semester 入学Ⅱ期入学試験, 大学院看護学研究科欠員補充二次募集入学試験
3月	1日 高等学校卒業式, 2日 中等教育学校卒業証書授与式, 高等学校1年生校外学習, 3日 大学入学試験(一般入試Ⅱ期・編入学入試Ⅱ期), 6日 高等学校笠間探究発表会, 7日 中等教育学校合唱コンクール(前期課程), 10日 中等教育学校PBL Day, 13日 大学入学試験(学内Ⅱ期), 16日 高等学校個人課題研究最終発表会, 17日 幼稚園卒園式, 中等教育学校つくばサイエンスツアー(前期課程), 20日 大学・短期大学卒業式・大学院学位授与式, 22日 幼稚園第2回新入園児保護者説明会, 23日 第5回評議員会・第6回理事会, 25日 大学・短期大学オープンキャンパス

3 財務の概要

(1) 事業活動収支計算書関係比率 【法人】

	比率	算式(*100)	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
1	人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{経常収入}}$	%	%	%	%	%
			61.7	58.3	55.6	55.5	55.8
2	人件費依存率	$\frac{\text{人件費}}{\text{学生生徒等納付金}}$	83.2	75.1	73.3	73.1	76.3
3	教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{経常収入}}$	31.4	31.0	36.1	31.1	32.8
4	管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{経常収入}}$	8.7	8.4	7.4	6.9	6.9
5	借入金等利息比率	$\frac{\text{借入金等利息}}{\text{経常収入}}$	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
6	事業活動収支差額比率	$\frac{\text{基本金組入前当年度収支差額}}{\text{事業活動収入}}$	-1.8	2.1	1.4	6.6	4.1
7	事業活動収支比率	$\frac{\text{事業活動支出}}{\text{事業活動収入}}$	101.8	97.9	98.6	93.4	95.9
8	基本金組入後収支比率	$\frac{\text{事業活動支出}}{\text{事業活動収入}-\text{基本金組入額}}$	109.9	107.3	103.1	98.9	105.5
9	学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{経常収入}}$	74.2	77.7	75.8	75.9	73.2
10	寄付金比率	$\frac{\text{寄付金}}{\text{事業活動収入}}$	0.3	0.3	0.3	0.3	0.4
11	経常寄付金比率	$\frac{\text{教育活動収支の寄付金}}{\text{経常収入}}$	0.1	0.1	0.2	0.2	0.1
12	補助金比率	$\frac{\text{補助金}}{\text{事業活動収入}}$	17.6	17.1	19.4	18.5	19.2
13	経常補助金比率	$\frac{\text{教育活動収支の補助金}}{\text{経常収入}}$	17.7	17.1	19.0	18.5	19.3
14	基本金組入率	$\frac{\text{基本金組入額}}{\text{事業活動収入}}$	7.3	8.7	4.3	5.6	9.2
15	減価償却額比率	$\frac{\text{減価償却額}}{\text{経常支出}}$	10.6	11.0	9.8	9.8	9.1
16	経常収支差額比率	$\frac{\text{経常収支差額}}{\text{経常収入}}$	-1.9	2.1	0.8	6.4	4.4
17	教育活動収支差額比率	$\frac{\text{教育活動収支差額}}{\text{教育活動収入計}}$	-1.9	2.1	0.8	6.4	4.4

(1) - 1 事業活動収支計算書関係比率 【大学】

	比率	算式(*100)	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
1	人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{経常収入}}$	%	%	%	%	%
			57.9	51.2	48.2	47.1	46.7
2	人件費依存率	$\frac{\text{人件費}}{\text{学生生徒等納付金}}$	69.8	58.3	56.9	55.6	56.9
3	教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{経常収入}}$	29.9	29.4	34.2	29.3	31.3
4	管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{経常収入}}$	9.0	8.5	7.0	6.4	6.5
5	借入金等利息比率	$\frac{\text{借入金等利息}}{\text{経常収入}}$	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
6	事業活動収支差額比率	$\frac{\text{基本金組入前当年度収支差額}}{\text{事業活動収入}}$	3.1	10.5	11.0	17.1	15.0
7	事業活動収支比率	$\frac{\text{事業活動支出}}{\text{事業活動収入}}$	96.9	89.5	89.0	82.9	85.0
8	基本金組入後収支比率	$\frac{\text{事業活動支出}}{\text{事業活動収入}-\text{基本金組入額}}$	104.5	99.5	92.5	86.5	93.6
9	学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{経常収入}}$	82.9	87.9	84.7	84.6	82.1
10	寄付金比率	$\frac{\text{寄付金}}{\text{事業活動収入}}$	0.3	0.3	0.2	0.2	0.4
11	経常寄付金比率	$\frac{\text{教育活動収支の寄付金}}{\text{経常収入}}$	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
12	補助金比率	$\frac{\text{補助金}}{\text{事業活動収入}}$	8.0	7.3	11.3	10.2	11.6
13	経常補助金比率	$\frac{\text{教育活動収支の補助金}}{\text{経常収入}}$	8.0	7.3	10.8	10.2	11.6
14	基本金組入率	$\frac{\text{基本金組入額}}{\text{事業活動収入}}$	7.3	10.1	3.8	4.1	9.2
15	減価償却額比率	$\frac{\text{減価償却額}}{\text{経常支出}}$	9.0	9.7	8.5	8.3	7.8
16	経常収支差額比率	$\frac{\text{経常収支差額}}{\text{経常収入}}$	3.2	10.7	10.5	17.0	15.4
17	教育活動収支差額比率	$\frac{\text{教育活動収支差額}}{\text{教育活動収入計}}$	3.2	10.7	10.5	17.0	15.4

(1) - 2 事業活動収支計算書関係比率 【短期大学】

	比率	算式 (*100)	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
1	人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{経常収入}}$	58.2	59.4	55.8	58.8	68.1
2	人件費依存率	$\frac{\text{人件費}}{\text{学生生徒等納付金}}$	70.5	69.8	68.1	70.5	94.8
3	教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{経常収入}}$	27.1	25.8	32.2	29.6	28.7
4	管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{経常収入}}$	10.0	10.0	9.6	9.6	9.2
5	借入金等利息比率	$\frac{\text{借入金等利息}}{\text{経常収入}}$	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
6	事業活動収支差額比率	$\frac{\text{基本金組入前当年度収支差額}}{\text{事業活動収入}}$	4.5	5.4	3.0	2.0	-7.2
7	事業活動収支比率	$\frac{\text{事業活動支出}}{\text{事業活動収入}}$	95.5	94.6	97.0	98.0	107.2
8	基本金組入後収支比率	$\frac{\text{事業活動支出}}{\text{事業活動収入 - 基本金組入額}}$	118.6	116.2	117.4	121.7	109.4
9	学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{経常収入}}$	82.5	85.1	82.0	83.4	71.8
10	寄付金比率	$\frac{\text{寄付金}}{\text{事業活動収入}}$	0.1	0.2	0.0	0.0	0.0
11	経常寄付金比率	$\frac{\text{教育活動収支の寄付金}}{\text{経常収入}}$	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
12	補助金比率	$\frac{\text{補助金}}{\text{事業活動収入}}$	10.2	8.6	11.6	12.9	10.9
13	経常補助金比率	$\frac{\text{教育活動収支の補助金}}{\text{経常収入}}$	10.2	8.7	11.1	12.9	11.0
14	基本金組入率	$\frac{\text{基本金組入額}}{\text{事業活動収入}}$	19.5	18.6	17.4	19.5	2.1
15	減価償却額比率	$\frac{\text{減価償却額}}{\text{経常支出}}$	10.1	10.3	9.3	9.3	7.8
16	経常収支差額比率	$\frac{\text{経常収支差額}}{\text{経常収入}}$	4.8	4.8	2.4	2.0	-6.0
17	教育活動収支差額比率	$\frac{\text{教育活動収支差額}}{\text{教育活動収入計}}$	4.7	4.8	2.4	2.0	-6.0

(2) 貸借対照表関係比率 【法人】

	比率	算式 (*100)	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
1	固定資産構成比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{総資産}}$	77.4	77.6	76.8	74.9	74.8
2	流動資産構成比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{総資産}}$	22.6	22.4	23.2	25.1	25.2
3	固定負債構成比率	$\frac{\text{固定負債}}{\text{総負債+純資産}}$	2.7	2.8	2.9	3.0	3.0
4	流動負債構成比率	$\frac{\text{流動負債}}{\text{総負債+純資産}}$	4.4	3.6	3.4	3.4	3.0
5	純資産構成比率	$\frac{\text{純資産}}{\text{総負債+純資産}}$	92.8	93.6	93.7	93.6	94.0
6	繰越収支差額構成比率	$\frac{\text{繰越収支差額}}{\text{総負債+純資産}}$	-41.3	-42.7	-43.3	-42.4	-41.6
7	固定比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{純資産}}$	83.3	83.0	82.0	80.1	79.6
8	固定長期適合率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{純資産+固定負債}}$	81.0	80.5	79.5	77.6	77.1
9	流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	509.9	620.0	681.9	738.9	839.5
10	総負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{総資産}}$	7.2	6.4	6.3	6.4	6.0
11	負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{純資産}}$	7.7	6.9	6.8	6.8	6.4
12	前受金保有率	$\frac{\text{現金預金}}{\text{前受金}}$	629.6	647.9	719.6	774.6	884.5
13	退職給与引当特定資産保有率	$\frac{\text{退職給与引当特定資産}}{\text{退職給与引当金}}$	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
14	基本金比率	$\frac{\text{基本金}}{\text{基本金要組入額}}$	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
15	減価償却比率	$\frac{\text{減価償却累計額 (図書を除く)}}{\text{減価償却資産取得価格 (図書を除く)}}$	53.1	54.3	55.8	57.4	58.4
16	積立率	$\frac{\text{運用資産}}{\text{要積立額}}$	39.9	39.7	40.4	43.3	42.7

(3) 経営上の成果と課題

2022年度決算における事業活動収支は、事業活動全体において事業活動収入計が65億7千万円、事業活動支出計が63億円となり、事業活動収支差額（基本金組入前当年度収支差額）は、2億7千万円の収入超過となった。また、経常的な収支のバランス、経営の健全性を示す経常収支差額においても2億8千万円の収入超過となった。

主たる要因として、学生生徒等納付金収入および補助金収入の増収、ならびに継続的に取り組んできた在籍者数に応じた予算配分と経費抑制のバランスを図れたことが挙げられる。特に補助金収入においては、大学全体での収容定員充足に加えて2018年度に開設した看護学部の経常費補助金交付開始も影響し、2021年度と比較して1億6百万円の増収となっている。

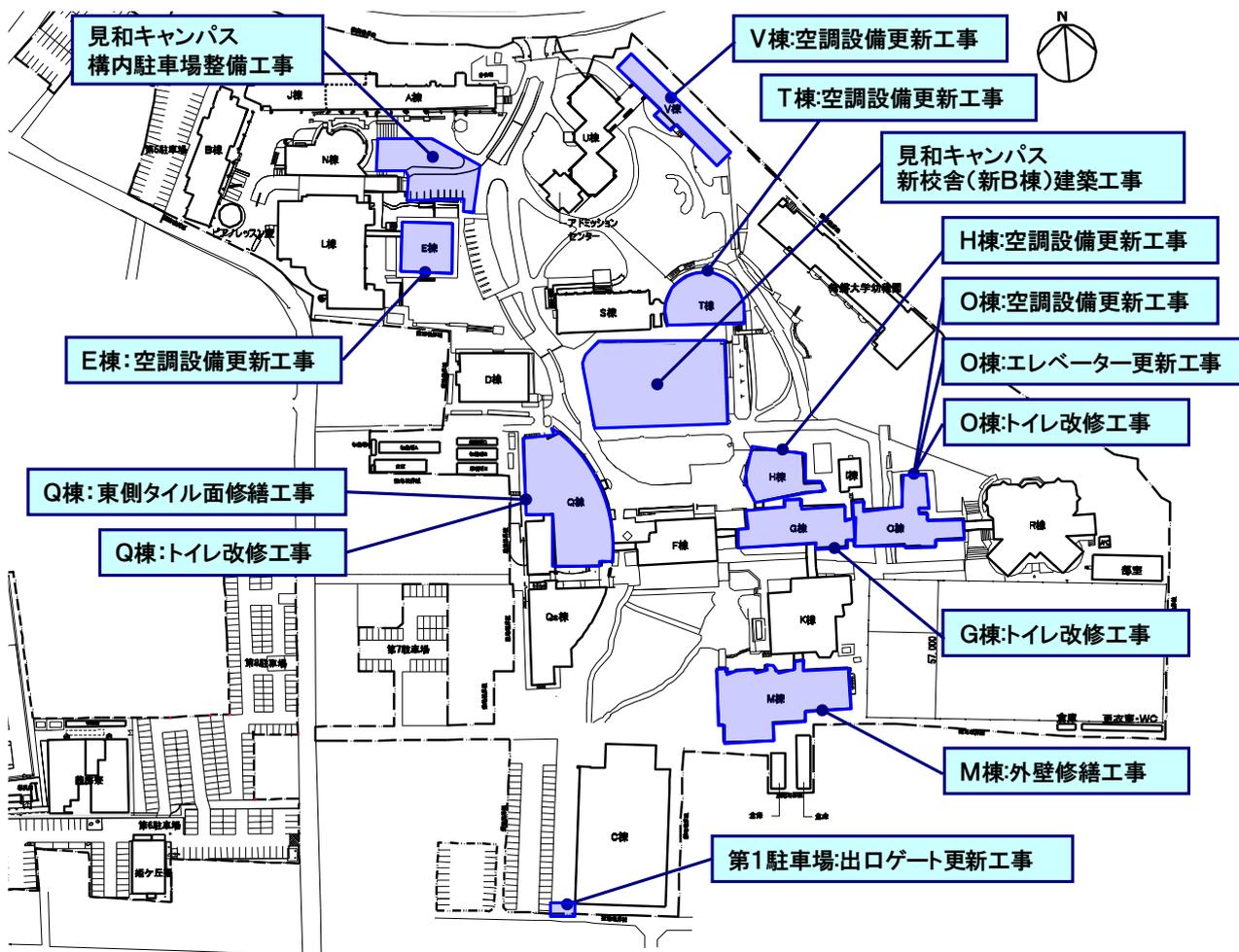
なお、学生生徒等納付金収入は2016年度から7期連続の増収で推移してきたが、2022年度をピークに減少傾向となることが予想される。また支出面では、今後も新校舎建築をはじめ教育環境の維持・充実を目的とした大口の設備投資計画が控えている。そのため、大学では定員確保の継続、短期大学を含め諸学校では、定員未充足の改善が喫緊の課題であり、これらの改善がより安定した財務基盤の確立につながると思われる。

今後も継続的な学生生徒の確保を軸に教育環境の充実を図りつつ、経営の健全性、経営の持続性を担保していけるよう収支均衡化の維持に努めていく。

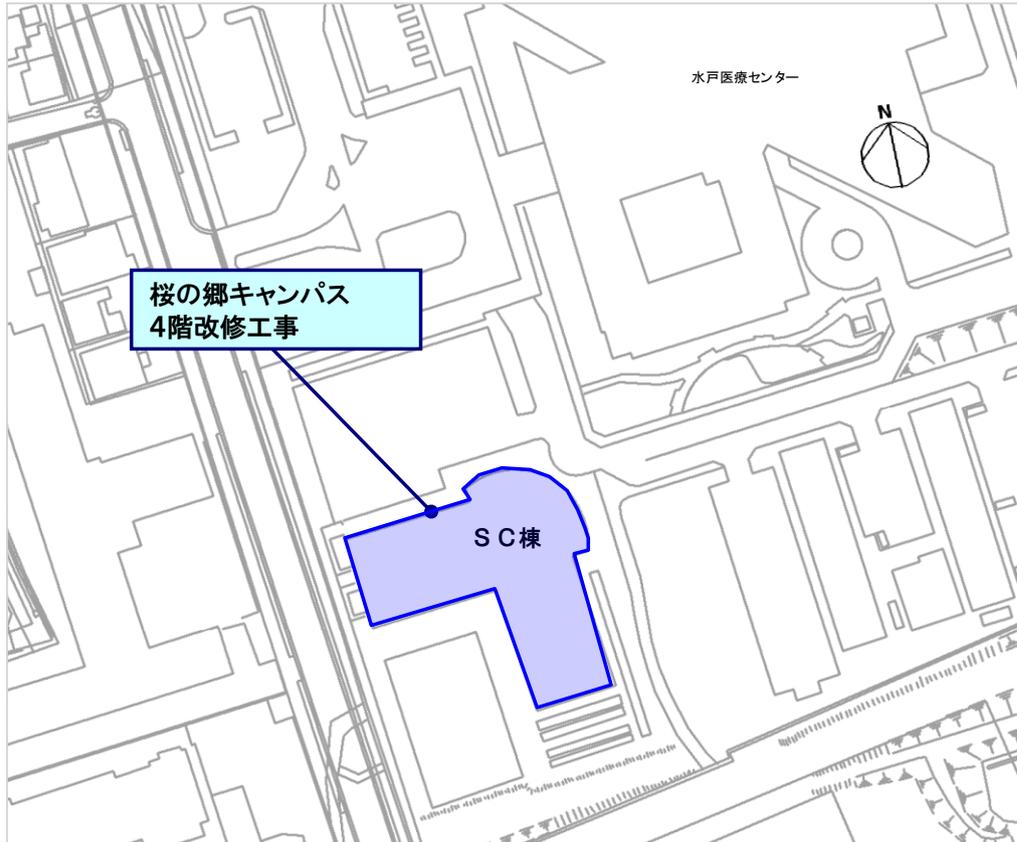
4 施設設備整備の概要

(1) 施設設備整備事業実施の位置図

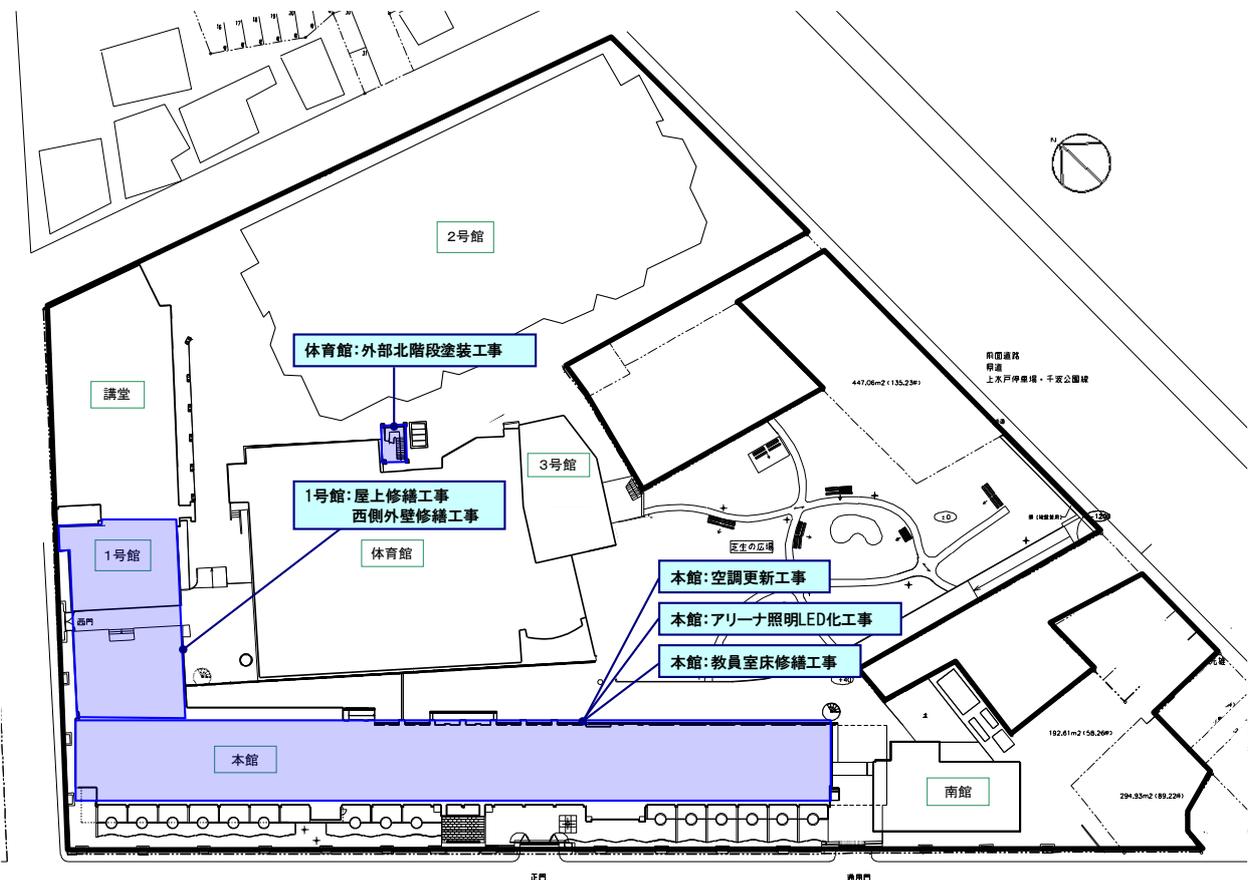
① 大学・短期大学〔見和キャンパス〕



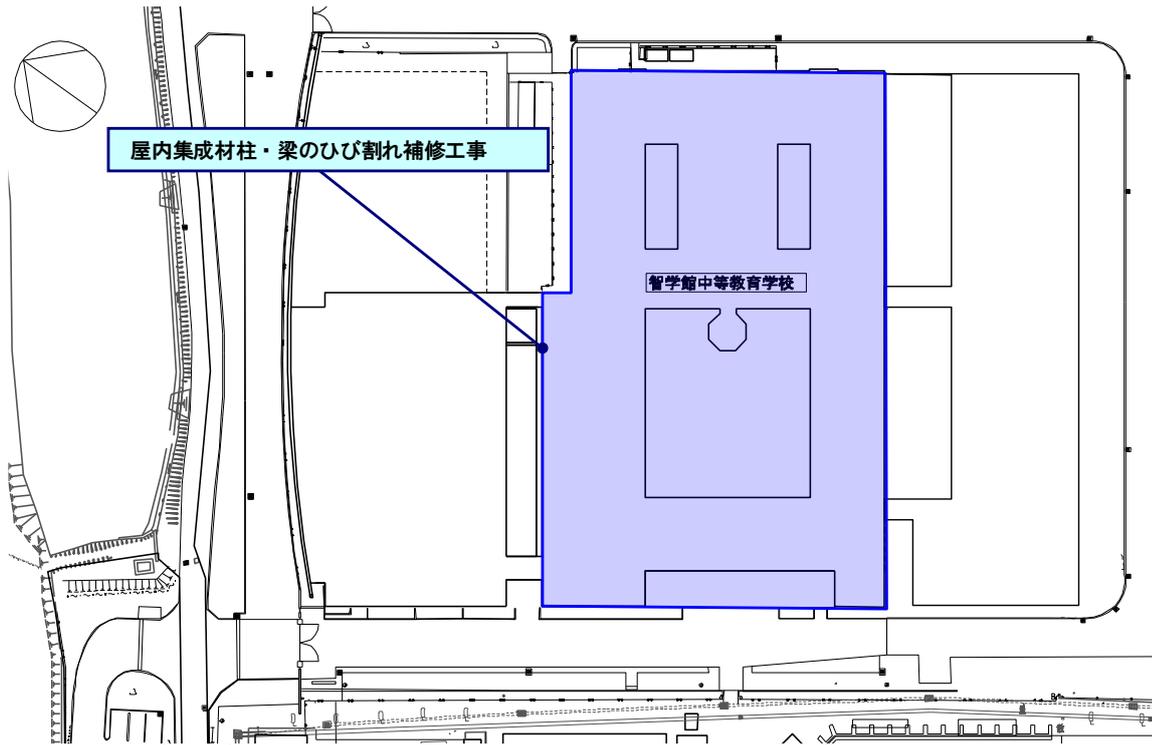
② 大学（看護学部）〔桜の郷キャンパス〕



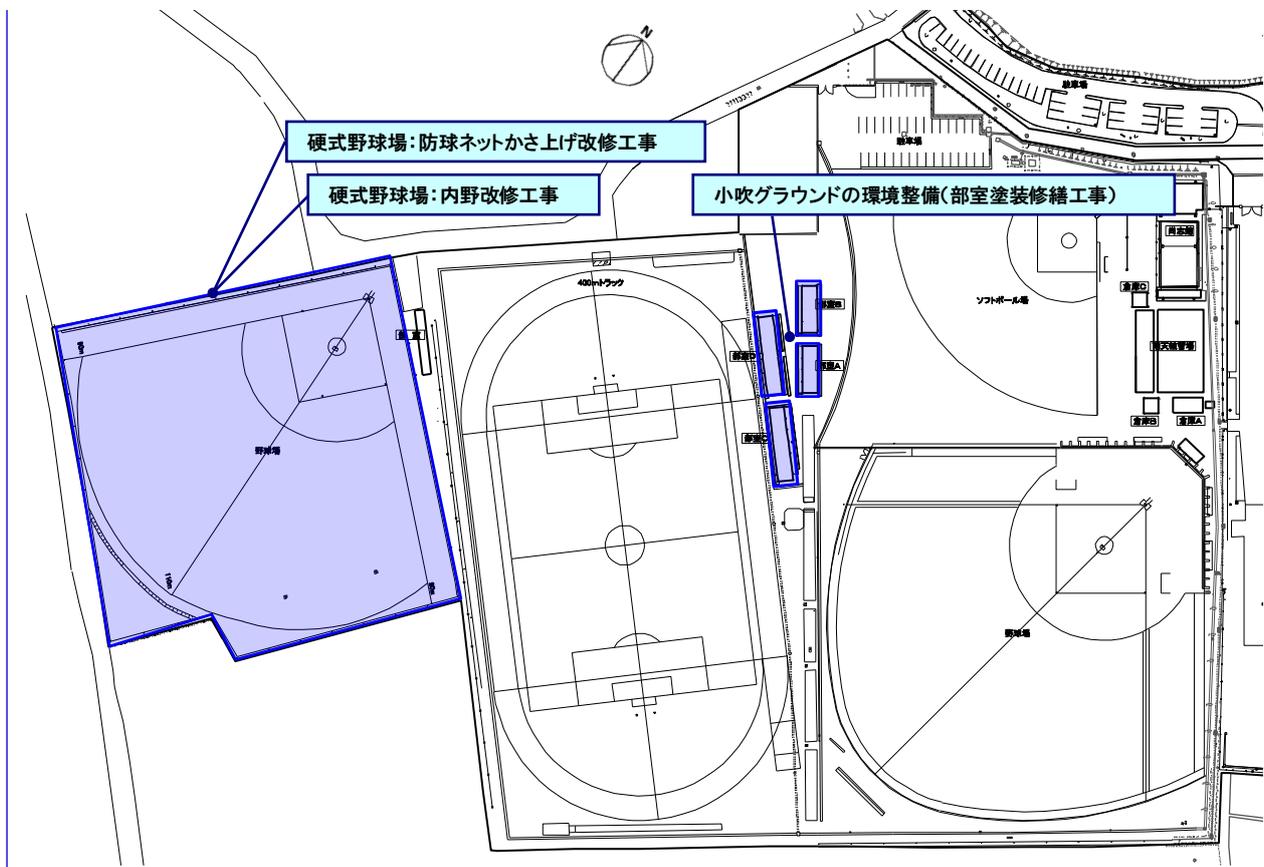
③ 常磐大学高等学校



④ 智学館中等教育学校



⑤ 大学・短期大学・高等学校 [小吹グラウンド]



⑥ 新荘地区

